

# Rational Suite®

## 管理ガイド

バージョン: 2003.06.10

G126-5385-00

WINDOWS



## 法的通知

© 1999-2003, Rational Software Corporation. All rights reserved.

バージョン番号: 2003.06.10

本マニュアル(「本著作物」)は、アメリカ合衆国その他の国々の著作権法及び種々の条約により保護されています。**Rational Software Corporation**の文書による事前の同意を得ることなく本著作物を複製し又は頒布することは、禁じられています。

本著作物はライセンスに基づいて提供されるもので、ライセンス規定に従う場合にのみ、使用または複製できます。ライセンス契約で明示的に許可されている場合を除き、本著作物または本著作物の複製を第三者に提供することは禁じられています。本著作物の権利または所有権を譲渡することはできません。ライセンス条項の全文については、ライセンス契約書をお読みください。

Rational Software Corporation、Rational、Rational Suite、Rational Suite ContentStudio、Rational Apex、Rational Process Workbench、Rational Rose、Rational Summit、Rational Unified process、Rational Visual Test、AnalystStudio、ClearCase、ClearCase Attache、ClearCase MultiSite、ClearDDTS、ClearGuide、ClearQuest、PerformanceStudio、PureCoverage、Purify、Quantify、Requisite、RequisitePro、RUP、SiteCheck、SiteLoad、SoDa、TestFactory、TestFoundation、TestMate、TestStudioは、Rational Software Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。Rationalのロゴ、Connexis、ObjecTime、Rational Developer Network、RDN、ScriptAssure、XDEは、Rational Software Corporationの米国およびその他の国における商標です。その他すべての名前は、識別の目的でのみ使用されているものであり、それぞれの会社の商標または登録商標です。

米国特許番号 5,193,180、5,335,344、5,535,329、5,574,898、5,649,200、5,675,802、5,754,760、5,835,701、6,049,666、6,126,329、6,167,534、6,206,584の請求の範囲内の部分。このほかにも米国特許及び国際特許申請中。

## 米国政府の権利

このソフトウェアおよび文書は、「商業的コンピュータソフトウェア」、「商業的ソフトウェア」または「使用が制限されたコンピュータソフトウェア」として提供され、規約は該当する DFARS 252.227、DFARS 252.211、FAR 2.101、FAR 52.227 (またそれ以前に定められた条項) に規定されています。本ソフトウェア製品およびドキュメントの使用、複製、または開示は、DFARS 227.7202、FAR 52.227-19 の下位条項 (c)、または FAR 52.227-14 (またはその改訂された規定) に定められるように、該当する Rational Software Corporation ライセンス契約書の条項の制約を受けます。

## 免責事項

本書および関連ソフトウェアは、ライセンス契約に基づいて使用することができます。そのような使用許諾契約書に別段の明示的な規定がある場合を除き、また、それぞれの国の法律により禁止または制限されている場合を除き、Rational Software Corporation は、本メディア、ソフトウェア製品、およびその関連文書について、明示的にも暗黙的にも、商品性に関する保証、非権利侵害性に関する保証、特定目的への適合性に関する保証、取り扱い、使用、または取引行為に伴う保証、およびライセンシーによる静穏無事な製品使用に対する妨害がないことの保証について一切の責任を負いません。

### 第三者の通知、コード、使用許諾および確認

Portions Copyright © 1992-1999, Summit Software Company. All rights reserved.

Microsoft、Microsoft のロゴ、Active Accessibility、Active Client、Active Desktop、Active Directory、ActiveMovie、Active Platform、ActiveStore、ActiveSync、ActiveX、Ask Maxwell、Authenticode、AutoSum、BackOffice、BackOffice のロゴ、bCentral、BizTalk、Bookshelf、ClearType、CodeView、DataTips、Developer Studio、Direct3D、DirectAnimation、DirectDraw、DirectInput、DirectX、DirectXJ、DoubleSpace、DriveSpace、FrontPage、Funstone、Genuine Microsoft Products のロゴ、IntelliEye、IntelliEye のロゴ、IntelliMirror、IntelliSense、J/Direct、JScript、LineShare、Liquid Motion、Mapbase、MapManager、MapPoint、MapVision、Microsoft Agent のロゴ、Microsoft eMbedded Visual Tools のロゴ、Microsoft Internet Explorer のロゴ、Microsoft Office Compatible のロゴ、Microsoft Press、Microsoft Press のロゴ、Microsoft QuickBasic、MS-DOS、MSDN、NetMeeting、NetShow、Office のロゴ、Outlook、PhotoDraw、PivotChart、PivotTable、PowerPoint、QuickAssembler、QuickShelf、RelayOne、Rushmore、SharePoint、SourceSafe、TipWizard、V-Chat、VideoFlash、Visual Basic、Visual Basic のロゴ、Visual C++、Visual C#、Visual FoxPro、Visual InterDev、Visual J++、Visual SourceSafe、Visual Studio、Visual Studio のロゴ、Vizact、WebBot、WebPIP、Win32、Win32s、Win64、Windows、Windows CE のロゴ、Windows のロゴ、Windows NT、Windows Start のロゴ、XENIX は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴ、Ultra、AnswerBook 2、medialib、OpenBoot、Solaris、Java、Java 3D、ShowMe TV、SunForum、SunVTS、SunFDDI、StarOffice、および SunPCi は、Sun Microsystems の米国および他の国における商標または登録商標です。

Purify は、Sun Microsystems, Inc. の米国特許番号 5,404,499 の下にライセンス供与されています。

Globetrotter ソフトウェア (FLEXIm ライブラリおよびユーティリティ) の本来の用途は、ソフトウェアライセンス管理であり、他の製品またはアプリケーションにこれらのソフトウェアを組み込むことは、ライセンスに含まれません。

BasicScript は、Summit Software Company の登録商標です。

デザイン パターン: Erich Gamma、Richard Helm、Ralph Johnson および John Vlissides による再使用可能なオブジェクト指向のソフトウェアのエLEMENT。Copyright © 1995 by Addison-Wesley Publishing Company, Inc. All rights reserved.

追加の法的通知は、お客様の Rational ソフトウェア インストールに含まれています。

# 目次

<b>まえがき</b> .....	<b>ix</b>
対象読者 .....	ix
その他の参照先 .....	ix
Rational Suite のマニュアル構成 .....	x
Rational カスタム サポートの連絡先 .....	xi
<b>1 Rational Suite 環境のセットアップ</b> .....	<b>13</b>
ネットワーク リソースの計画 .....	13
UCM の計画 .....	13
サーバーの指定 .....	14
データベース計画の開発 .....	14
データベースの設定 .....	16
セキュリティの設定 .....	16
ライセンスの設定 .....	16
サーバーへの Rational Suite ソフトウェアのインストール .....	17
Rational ClearCase LT のインストール .....	17
サーバーとファイルの設定 .....	17
統合の設定 .....	17
クライアント コンピュータへの Rational Suite ソフトウェアのインストール ...	18
<b>2 Rational プロジェクトの理解</b> .....	<b>19</b>
Rational プロジェクトの概要 .....	19
Rational Administrator について .....	19
Rational プロジェクトで作業する利点 .....	20
UCM の概要 .....	20
Rational プロジェクトと関連する成果物の理解 .....	21
RequisitePro プロジェクト .....	21
テスト データストア .....	22
ClearQuest データベース .....	23
Rose モデル ファイル .....	24
Rational 成果物と Rational プロジェクトとの関連付け .....	25
<b>3 Rational プロジェクトの作成と設定</b> .....	<b>27</b>
Rational プロジェクトの作成 .....	27
プロジェクトの格納場所の決定 .....	27
共有ディレクトリの作成 .....	28
Rational プロジェクトの作成 .....	28

Rational プロジェクトの設定 .....	29
ClearQuest MultiSite の操作 .....	30
要求の関連付け .....	30
新規 RequisitePro プロジェクトの作成 .....	30
既存の RequisitePro プロジェクトと Rational プロジェクトの関連付け .....	31
RequisitePro と XDE の統合機能 .....	31
テスト データストアの関連付け .....	32
新規テスト データストアの作成 .....	32
既存のテスト データストアとプロジェクトの関連付け .....	32
ClearQuest データベースの関連付け .....	33
Rose モデルの関連付け .....	34
Rose での仮想パス マップの確立 .....	34
Rose ファイルと Rational プロジェクトの関連付け .....	35
Rational Rose から XDE への移行 .....	35
<b>4 Rational プロジェクトの使用 .....</b>	<b>37</b>
Rational プロジェクトへの接続 .....	37
Rational プロジェクトの登録 .....	37
Rational プロジェクトの登録解除 .....	38
Rational プロジェクトのプロパティの使用 .....	38
Rational プロジェクトからの切断 .....	38
Rational プロジェクトの再配置 .....	39
Rational プロジェクトの再配置の準備 .....	39
Rational プロジェクトの再配置の概要 .....	40
RequisitePro プロジェクトの再配置 .....	41
再配置前の Rational プロジェクトの削除 .....	42
新規 Rational プロジェクトの作成 .....	42
RequisitePro プロジェクトと新規 Rational プロジェクトの関連付け .....	43
テスト成果物と新規 Rational プロジェクトの関連付け .....	44
新規 Rational プロジェクトに関連付けるテスト アセットの作成 .....	44
ClearQuest データベースの再配置 .....	45
ClearQuest データベースと新規 Rational プロジェクトの関連付け .....	45
Rose モデルと新規 Rational プロジェクトの関連付け .....	45
Rational プロジェクトの削除 .....	46
ClearQuest MultiSite の操作 .....	47
SQL Anywhere の使用 .....	47
Sybase Central .....	47
ISQL .....	47

<b>5 テスト ユーザーとテスト グループの管理</b>	<b>49</b>
Rational Test のユーザーとグループの理解	49
テスト ユーザー	49
テスト グループ	50
Admin テスト ユーザー	50
Admin テスト ユーザーのセキュリティ	50
テスト ユーザーとテスト グループの管理	51
テスト グループまたはテスト ユーザーの追加	51
テスト グループまたはテスト ユーザーの変更	52
テスト グループまたはテスト ユーザーの削除	53
テスト ユーザーのパスワードの変更	53
<b>6 ClearQuest と RequisitePro の統合の設定</b>	<b>55</b>
この章の内容	55
設定プロセスの概要	56
RequisitePro-ClearQuest 統合ウィザードの概要	56
計画: 使用する設定タイプ (標準またはカスタム) の決定	56
標準設定タイプ	56
カスタム設定タイプ	57
Rational Administrator プロジェクトの設定	57
ClearQuest スキーマと RequisitePro プロジェクトのテスト	57
標準統合の設定	58
ClearQuest スキーマの設定	58
RequisitePro プロジェクトの設定	59
構成の設定	59
カスタム統合の設定	59
ClearQuest スキーマの設定	60
RequisitePro プロジェクトの設定	61
構成の設定	61
レコードへのアクセス権の維持管理	62
ClearQuest MultiSite との統合の使用	62
統合の修復と再設定	63
Rational Administrator プロジェクトに関する問題の修復	63
Repository パッケージと RequisitePro パッケージの適用	63
無効な関連付けの修復	64
既存の統合の再設定	64
カスタムの関連付けによる既存の関連付けの再設定	64
標準の関連付けによる既存の関連付けの上書き	65

<b>7</b>	<b>トラブルシューティング</b>	<b>67</b>
	トラブルシューティング ガイド	67
	Rational ClearQuest との統合のトラブルシューティング	67
	パッケージがないというエラーのトラブルシューティング	68
	データ コード ページ: ClearQuest との文字セットの互換性	69
	カスタマ サポートに問い合わせる前に	69
	その他のトラブルシューティング情報	70
	<b>索引</b>	<b>71</b>

# まえがき

本書では、Rational Suite® 環境のセットアップと維持管理を行うために管理者が行なう一般的なタスクについて概説しています。一部の項目については詳しく掘り下げて説明しており、その他の参考資料に関しても解説しています。

## 対象読者

---

本書は、Rational Suite 管理者を対象としています。

## その他の参照先

---

- マニュアルはすべてオンライン (HTML 形式または PDF 形式) で参照できます。オンラインマニュアルは、Rational™ Solutions for Windows のオンライン ドキュメント CD-ROM に収録されています。
- Rational の技術資料については、<http://www.rational.com/documentation> (ただし、英語のみのご利用となります) を参照してください。
- トレーニング コースの詳細については、ラショナル ユニバーシティの Web サイト <http://www.rational.co.jp/services/ru/> を参照してください。
- Rational Suite 製品を使用したソフトウェア開発に関する記事、ディスカッション フォーラム、ウェブ ベースのトレーニング コースについては、Rational Developer Network<sup>SM</sup> に参加してください。参加するには、[スタート] メニューで [プログラム]、[Rational Suite] の順にポイントし、[Rational Developer Network へのログオン] をクリックします。

# Rational Suite のマニュアル構成

---



## Rational カスタマ サポートの連絡先

---

本製品のインストール、使用、保守に関するご質問については、以下の Rational カスタマ サポートまでお問い合わせください。

地域	電話	Fax	メール
アジア太平洋 (日本を含む)	+61-2-9419-0111	+61-2-9419-0123	support@apac.rational.com (英語のみ対応) support@japan.rational.com (日本語対応可)

**メモ:** まず次の内容に答える準備をしてから、Rational カスタマ サポートにお問い合わせください。

- お名前、会社名、電話番号、電子メールアドレス
- オペレーティング システム、バージョン番号、適用されているサービス パック  
またはパッチ
- 製品名とリリース番号
- サービス要求番号 (以前に報告した問題の続きである場合)



# Rational Suite 環境の セットアップ

# 1

この章では、Rational Suite をネットワークに初めて導入する際に必要な Rational Suite 環境のセットアップ手順について説明します。

セットアップ時には、次のタスクを実行する必要があります。

- ネットワーク リソースの計画
- ライセンスの設定
- サーバーへの Rational Suite ソフトウェアのインストール
- サーバーとファイルの設定
- 統合の設定
- クライアントへの Rational Suite ソフトウェアのインストール

Rational Suite のアップグレード手順については、『Rational Suite アップグレード ガイド』を参照してください。

## ネットワーク リソースの計画

---

計画では、本項で説明する次の分野の作業を行います。

- UCM (統一変更管理: Unified Change Management) の計画
- サーバーの指定
- データベース計画の開発
- データベースの設定
- セキュリティの設定

### UCM の計画

統一変更管理とは、要求分析から実際のリリースまで、ソフトウェアの開発行程を通して変更内容を管理するための Rational 独自のプロセスです。UCM を使用するようにネットワークを設定するには、特別な配慮が必要です。UCM を使用して Rational アセットを格納するよう計画している場合は、『Rational Suite 統一変更管理 (UCM) ユーザーズ ガイド』を参照してください。

## サーバーの指定

Rational Suite をインストールする前に、サーバーとして使用するコンピュータを決定する必要があります。サーバーには、可用性が高く、メモリとディスク容量の大きなコンピュータが適しています。Rational Suite 環境に導入できるサーバーのタイプを表 1 に示します。なお、1 台のコンピュータ上で複数のサーバーを稼働させることができます。

表 1 Rational Suite で使用するサーバー

サーバーの種類	説明
ライセンス サーバー	フローティング ライセンスを使用する場合は、そのライセンスを管理するサーバーをセットアップする必要があります。詳細については、『Rational Software ライセンス管理ガイド』を参照してください。
Web サーバー	<p>Rational ツールの中には、Web コンポーネントが含まれているものがあります。次のツールに対して、Web サーバーをセットアップできます。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>▪ ClearCase® LT</li><li>▪ ClearQuest®</li><li>▪ RequisitePro</li><li>▪ ProjectConsole</li></ul> <p>詳細については、『Rational Software サーバー製品インストールガイド』を参照してください。</p>
データベース サーバー	Rational Suite 製品で市販のデータベースを使用する場合は、専用のサーバーにデータベースをインストールすることをお勧めします。詳細については、14 ページの「データベース計画の開発」を参照してください。
ClearCase LT サーバー	ClearCase LT は、クライアント/サーバー製品です。ClearCase LT クライアントを使用するには、ClearCase LT サーバーをクライアントと同じネットワーク ドメインにインストールする必要があります。クライアントが連携動作できるサーバーは 1 台のみです。ClearCase LT サーバー システムの選定方法については、『Rational Software サーバー製品インストールガイド』を参照してください。
ClearQuest 管理用システム	ClearQuest を使用するには、1 台のコンピュータを管理用システムとして指定する必要があります。詳細については、『Rational Software サーバー製品インストールガイド』を参照してください。

## データベース計画の開発

使用している Suite 製品ごとに、Rational Suite 製品と共に使用するデータベース管理システムを決定する必要があります。表 2 に、想定されるユーザー グループのサイズを基に、使用できるデータベース システムを製品別に示しています。

表 2 使用できる市販データベース

	<b>Rational ClearQuest</b>	<b>Rational RequisitePro</b>	<b>Rational Test</b>	<b>ProjectConsole</b>
<b>Microsoft Access</b>	同時ユーザーが 4 人以下	RequisitePro プロ ジェクトごとの 同時ユーザーが 5 人以内	同時ユーザーが 常に 1 人	同時ユーザーが 4 人以下
<b>Sybase SQL Anywhere サーバー</b>	同時ユーザーが 5 ～ 20 人	なし	同時ユーザー数が 1 人または複数	同時ユーザーが 5 ～ 20 人
<b>Microsoft SQL Server</b>	同時ユーザーが 21 人以上	データベースごと の同時ユーザーが 6 人以上	なし	同時ユーザーが 21 人以上
<b>Oracle</b>	同時ユーザーが 21 人以上	スキーマごとの 同時ユーザーが 6 人以上	なし	同時ユーザーが 21 人以上
<b>IBM DB2</b>	同時ユーザーが 21 人以上	なし	なし	同時ユーザーが 21 人以上

同時ユーザーの人数は、データベースやスキーマに同じ時間にアクセスするユーザーの総数で判断されます。

データベースのパフォーマンスは、ユーザー数、ネットワークの応答時間、データベースのレコード数、データベースの調整状態などによって異なります。詳細については、製品のマニュアルを参照してください。

Oracle または SQL Server を使用して RequisitePro プロジェクトを保存する場合、1 つの Oracle スキーマまたは SQL Server データベースに複数のプロジェクトを格納できます。

コンピュータにいずれかの Rational Suite 製品をインストールすると、Microsoft Access Runtime が自動的にインストールされます (Access 開発環境はインストールされません)。また、製品の CD-ROM には Sybase SQL Anywhere も含まれていますが、これは Rational 製品に対してのみ使用できるように設定されています。SQL Anywhere は自動的にインストールされないため、Rational Suite とは別にインストールしてください。

Rational Suite メディア キットに付属している『Rational Software サーバー製品インストールガイド』には、各種データベース管理システムのインストール、設定、管理手順や、特に ClearQuest と組み合わせて使用する方法が記載されています。

## データベースの設定

市販データベースを使用する Rational 製品については、その製品をインストールする前に、市販データベースをインストールして設定してください。

## セキュリティの設定

一部の Rational Suite 製品では、Rational Administrator でユーザーとグループに対して権限を設定する方法でセキュリティを設定します。また、個別の製品を使用してその他の製品に対するセキュリティ パラメータを設定する方法もあります。

表 3 に、各 Rational ツールにセキュリティを設定する方法についてまとめます。

表 3      まとめ : Rational ツールのセキュリティ設定

ツール	コメント
Rational ClearQuest	ClearQuest の管理者は、ClearQuest Designer を使用して ClearQuest データベースへのユーザー アクセスとグループ アクセスを設定します。 『Rational ClearQuest 管理ガイド』を参照してください。
Rational RequisitePro	RequisitePro の管理者は、RequisitePro データベースのプロジェクトセキュリティを設定する方法で、RequisitePro ユーザーとグループをセットアップします。 『Rational RequisitePro ユーザーズ ガイド』を参照してください。
Rational Rose®	Rational Rose では、ユーザー リストはサポートされていません。Rose にセキュリティを実装するには、Rose モデルを格納するディレクトリにセキュリティを設定します。
Rational Test	Rational Administrator を使用して、ユーザーとグループをテスト データストアに追加します。詳細については、49 ページの「テスト ユーザーとテスト グループの管理」を参照してください。
Rational プロジェクト	Rational プロジェクトにパスワードを設定することでセキュリティを実装します (オプション)。詳細については、28 ページの「Rational プロジェクトの作成」を参照してください。

## ライセンスの設定

Rational Suite では、Rational Common Licensing Services を使用します。Rational ソフトウェアをインストールする前に、使用するライセンスのタイプを決定し、必要に応じて、インストールするソフトウェアのライセンスを設定します。ライセンスの詳細については、Rational Suite メディア キットに付属している『Rational Software ライセンス管理ガイド』を参照してください。

## サーバーへの Rational Suite ソフトウェアのインストール

Rational のセットアップ プログラムを使用してネットワーク サーバーに Rational Suite をインストールします。Rational のセットアップ プログラムを使用すると、Rational Suite やその他の Rational 製品をインストールできます。

このセットアップ プログラムでは、インストール オプションとして標準インストールかサイレント インストールを選択できます。

プログラムの実行中に問題が生じた場合は、Windows 版セットアップ プログラムのヘルプを参照してください。

## Rational ClearCase LT のインストール

ClearCase LT を使用するには、次の手順を実行する必要があります。

- Rational Suite をインストールする前に、ClearCase LT サーバーをインストールします。
- ClearCase LT クライアントをインストールする前に、ClearCase LT サーバーをインストールします。これにより、クライアントのインストール中にサーバー名を指定でき、後でサーバーへのポインタを設定する必要がなくなります。

## サーバーとファイルの設定

Rational ソフトウェアのインストール後に、サーバー (Web サーバーなど) や Rational ツールで使用するファイルなどの設定を行います。14 ページの表 1 に、設定が必要なサーバーのリストが示されています。『Rational Software サーバー製品インストールガイド』にも、Rational ソフトウェアのインストール後に実行する手順について概説されています。

## 統合の設定

使用する予定の統合機能を、表 4 に示すように設定します。

表 4 Rational Suite の統合

統合	コメント
Rational プロジェクト	Rational プロジェクトにより、Rational 製品のデータストアが関連付けられ、Rational Suite の全般にわたる統合が有効になります。概要については、27 ページの「Rational プロジェクトの作成」を参照してください。
UCM	UCM は、構成管理に関連するプロセスです。UCM のツール サポートは、Rational ClearCase と Rational ClearQuest に組み込まれています。詳細については、『Rational Suite 統一変更管理 (UCM) ユーザーズ ガイド』を参照してください。
UCM と ClearQuest	ClearQuest を UCM 対応プロジェクトに追加する場合の要件については、『Rational ClearQuest 管理ガイド』の UCM 統合を使用する方法についての説明を参照してください。

表 4 Rational Suite の統合 ( 続き )

統合	コメント
RequisitePro と ClearQuest	この統合により、障害と拡張依頼を要求に関連付けることができるため、レポートの出所を簡単に追跡できるようになります。詳細については、55 ページの「ClearQuest と RequisitePro の統合の設定」を参照してください。
ClearQuest との統合	ClearQuest との統合の設定方法については、『Rational ClearQuest 管理ガイド』の「ClearQuest のスキーマとパッケージ」を参照してください。
拡張ヘルプ	拡張ヘルプはすべての Rational Suite ツールから参照できます。表示元のツールやその状況に応じて、Rational Unified Process® の関連項目も参照できます。拡張ヘルプは、チームに関連する情報を追加するなど、カスタマイズすることもできます。詳細については、使用しているアプリケーションのオンラインヘルプを参照してください。
RequisitePro との統合	RequisitePro との統合の設定方法については、『Rational RequisitePro ユーザーズ ガイド』の「他製品との統合」の章を参照してください。

## クライアント コンピュータへの Rational Suite ソフトウェアのインストール

Rational Suite のサーバー環境をセットアップした後で、Rational ソフトウェアをクライアント コンピュータにインストールできます。インストールの前提条件、クライアント コンピュータへのインストール方法、インストール後に実行する作業などの詳細情報については、『Rational Software サーバー製品インストールガイド』を参照してください。

この章では、Rational プロジェクトをより効率的に活用するために役立つ情報を紹介します。  
この章では、次の内容について説明します。

- Rational プロジェクトの構造
- Rational プロジェクトの観点から捉えた統一変更管理 (UCM)
- プロジェクトに関連付けることのできる Rational Suite の成果物、その成果物と Rational プロジェクトとの関係

## Rational プロジェクトの概要

---

Rational プロジェクトは、Rational Suite で作業するときに使用するデータを関連付けるデータベースとデータストアの論理的な集合です。このデータの集合は、選択した名前 (**project.rsp** など) で Rational プロジェクト (**.rsp**) ファイルとして保存されます。Rational プロジェクトは、次の成果物から構成されます。

- 1 つの RequisitePro プロジェクト (なくても可)
- 1 つの Rational Test テスト データストア (なくても可)
- 1 つの ClearQuest データベース (なくても可)
- Rose モデル ファイル (ファイル数に制限はなし)

## Rational Administrator について

Rational Administrator を使用して、Rational Suite 環境を管理します。Rational Administrator は、テスト データストア、RequisitePro プロジェクト、Rose モデルなど、Rational 成果物間の関連付け (ポインタ) を管理するツールです。

Rational Administrator を使用すると、次の作業を実行できます。

- Rational Suite 成果物間の関連付けのサブセットである Rational プロジェクトの作成と管理
- ユーザーとグループの作成と管理
- RequisitePro データベースとテスト データストア内のプロジェクト アセットのアップグレード
- Rational プロジェクトを統一変更管理 (UCM) で使用できるようにする。

## Rational プロジェクトで作業する利点

Rational プロジェクトを作成すると、各種 Rational Suite ツールを統合して効果的に活用できます。たとえば次のような場合です。

- Rational TestManager の [Test Log] ウィンドウで、ClearQuest の障害を生成できます。
- RequisitePro の要求を Rational Test のテスト データストアに関連付けることができます。
- 反復型モデル設計で、常に Rose データ モデルと RequisitePro の要求を関連付けることができます。
- ClearQuest と RequisitePro データベースを関連付けることにより、障害をそのソースである要求に関連付けることができます。

## UCM の概要

---

統一変更管理 (UCM) とは、要求分析から実際のリリースまで、ソフトウェアの開発行程を通して変更内容を管理するための Rational 独自のプロセスです。UCM は開発工程をカバーし、要求、設計モデル、ドキュメント、コンポーネント、テスト ケース、ソース コードに対する変更の管理方法を定義します。

UCM が優れているのは、プロジェクトの進捗の計画や追跡に関連するアクティビティを、変更の影響を受ける**成果物**に関連付けることができるという点です。アクティビティは、会議で挙げられた問題点、バグ データベースに入れられた不具合、または顧客から送信された拡張依頼から発生します。

実際に多くの開発チームが、ソース コードに加えた変更を UCM を使用して管理しています。また、UCM を使用すれば、RequisitePro のプロジェクト、Rational Test のテスト データストア、Rose のモデル ファイルなど、Rational プロジェクトのエレメントに対する変更も管理できます。

Rational プロジェクトに対して UCM を有効化するには、Rational Administrator を使用します。Rational Suite での UCM の用法については、『Rational Suite 統一変更管理 (UCM) ユーザーズガイド』を参照してください。

## Rational プロジェクトと関連する成果物の理解

---

この項では、Rational プロジェクトに関連付けることができる成果物のタイプと、それらの成果物と Rational プロジェクトとの関係について説明します。

### RequisitePro プロジェクト

Rational RequisitePro プロジェクトを使用すると、変更依頼の整理、優先順位の決定、追跡、管理を行うことができます。RequisitePro データベースを中央リポジトリとして使用すれば、ユーザー要求、ソフトウェア仕様、ユースケースなど、ソフトウェア開発のあらゆる要求を管理できます。

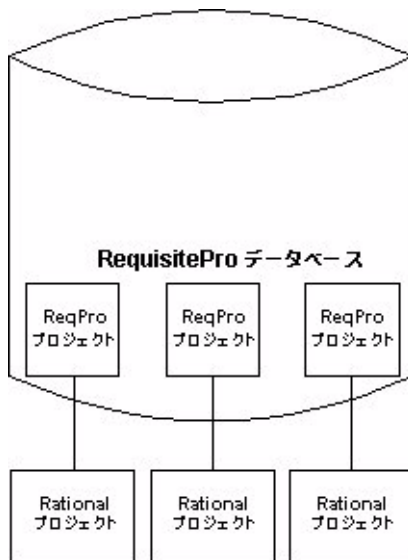
各ユーザーは、要求ドキュメント内の要求を項目化し、統合データベースを使用してそれらの項目を管理します。各 RequisitePro プロジェクトは、要求ドキュメントと動的にリンクされている RequisitePro データベースで構成されています。チームは、同じプロジェクトについて協力し、連絡を取り合い、更新内容を共有することができます。RequisitePro プロジェクトのドキュメントには、プロジェクトに必要な要件を明らかにし、ユーザーにとって意味のあるテキスト、グラフィック、またはほかのオブジェクト (OLE オブジェクトなど) を保存できます。

1 つの RequisitePro データベースには、複数の RequisitePro プロジェクトを組み込むことができます。各プロジェクトは、別々の Rational プロジェクトに関連付けられています。

ただし、各 RequisitePro プロジェクトに関連付けることができる Rational プロジェクトは 1 つのみです。RequisitePro プロジェクトが Rational プロジェクトに関連付けられている場合に、同じ RequisitePro プロジェクトを別の Rational プロジェクトに関連付けると、最初の Rational プロジェクトとの関連付けは削除されます。

図 1 に、RequisitePro プロジェクトと Rational プロジェクトとの関係を示します。

図 1 RequisitePro プロジェクトと Rational プロジェクトの関係



詳細については、『Rational Software サーバー製品インストールガイド』で RequisitePro のセットアップに関する章を参照してください。RequisitePro の使用法については、『Rational RequisitePro ユーザーズガイド』を参照してください。

## テスト データストア

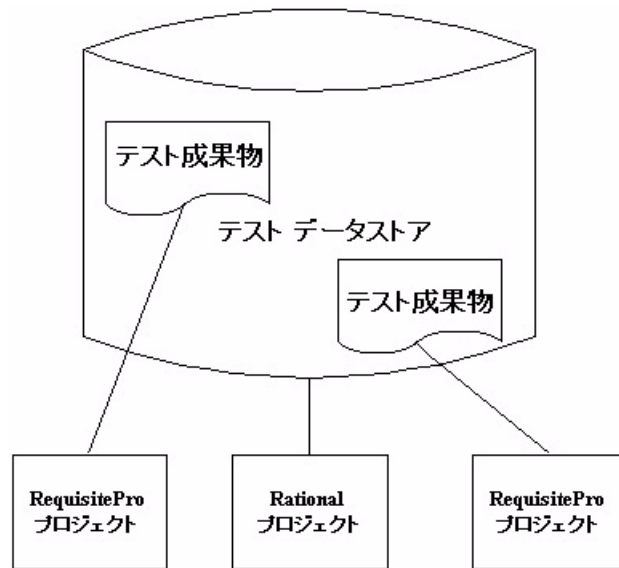
Rational Test のテストデータストアには、テストスクリプト、スイート、データプール、ログ、レポート、テスト計画、ビルド情報など、関連するテストアセットがまとめて格納されています。

開発チームのメンバーにとっては、同一の共有リソース (テストデータストアや ClearQuest 障害データベースなど) を使用して、プロジェクトに関する作業についてテストやレポートを実行できると便利です。各 Rational プロジェクトには、テストデータストアを 1 つだけ関連付けることができます。

テストデータストア内のテスト成果物は、1 つの RequisitePro プロジェクトにのみ関連付け可能です。ただし、1 つのテストデータストアに、異なる RequisitePro プロジェクトに関連付けられている複数の成果物を格納できます。つまり、複数の RequisitePro プロジェクトの要求を、同じテストデータストア内の別々のテストケースに関連付けることができます。

図 2 に、テスト データストアと Rational プロジェクトとの関係を示します。

図 2 テスト データストアと Rational プロジェクトの関係



詳細については、『Rational TestManager User's Guide』を参照してください。

## ClearQuest データベース

Rational ClearQuest は変更依頼を管理するツールです。ClearQuest では、Rational プロジェクトに関連するすべての変更アクティビティ (障害や拡張依頼など) を追跡して管理できます。ClearQuest は、Rational Suite のほかのツールと併用した場合、反復作業の多いソフトウェア開発環境において変更内容や障害を管理するという重要な役割を果たします。

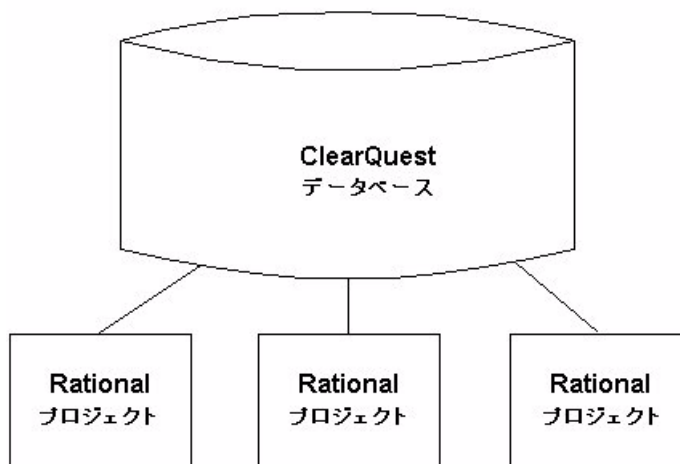
Rational ClearQuest データベースは、1 つのスキーマ リポジトリと 1 つのユーザー データベースで構成されています。

- ClearQuest スキーマ リポジトリには、既存のスキーマに関連付けられたすべてのスキーマとすべてのシステム データが保存されます。ユーザー データは保存されません。
- ClearQuest のユーザー データベースには、このデータベースに関連するすべてのユーザー データとスキーマのコピーが格納されます。ClearQuest データベースのユーザー データには、障害などの変更依頼、レポート、レコードまたはテーブル、ユーザーが入力した全データなどが含まれます。

1 つの ClearQuest データベースを複数の Rational プロジェクトで使用できます。

図 3 に、ClearQuest データベースと Rational プロジェクトとの関係を示します。

図 3 ClearQuest データベースと Rational プロジェクトの関係



ClearQuest の詳細については、『Rational ClearQuest 入門』を参照してください。

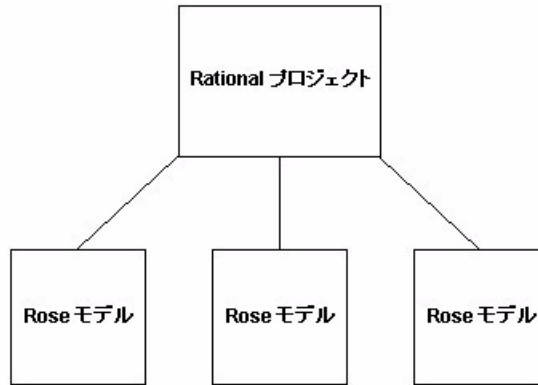
## Rose モデル ファイル

Rational Rose を使用すると、統一モデリング言語 (UML) を使用して、アーキテクチャ、コンポーネント、データのビジュアル モデリングが可能になります。Rose モデルから、一般的な多数の言語で記述されたコードのフレームワークを自動的に実装できます。また、Rose では、ソフトウェア モデルとそのモデルの実装であるコードとの整合性も維持管理できます。

Rational プロジェクトは任意の数の Rose モデルに関連付けることができます。モデルの数に上限はありません。

図 4 に、Rose モデルと Rational プロジェクトとの関係を示します。

図 4     Rose モデルと Rational プロジェクトの関係

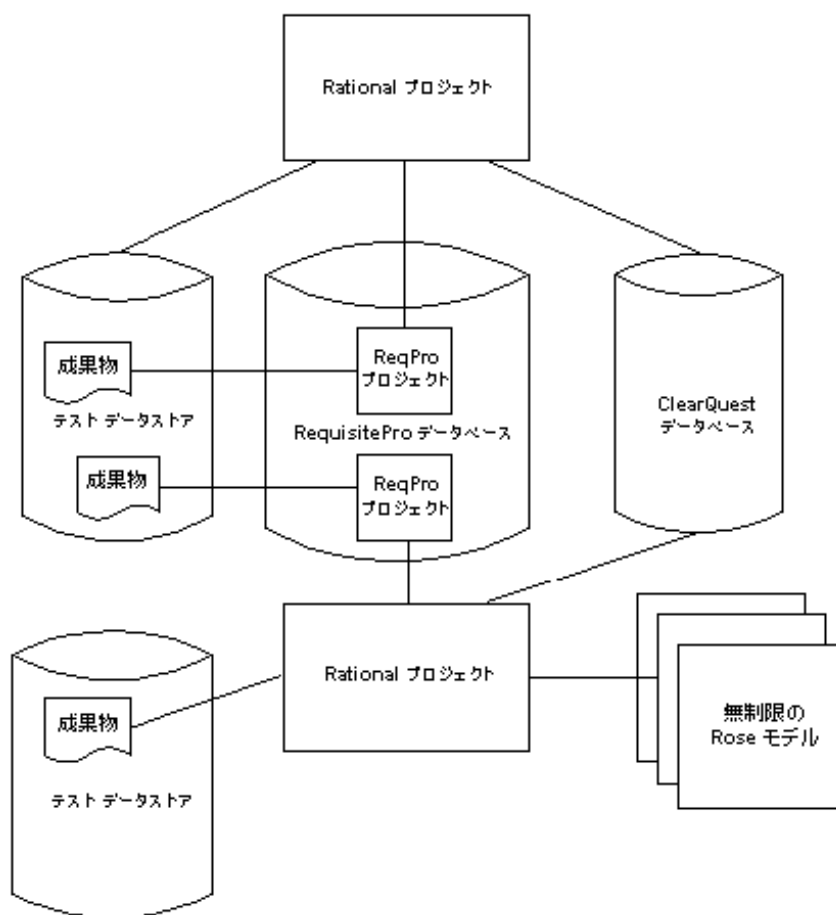


### **Rational 成果物と Rational プロジェクトとの関連付け**

図 5 に、Rational プロジェクトと、関連付けられている成果物との関係の例を示します。

Rational プロジェクトが複数表示されているのは、つまり、1 つの成果物に関連付けられている Rational プロジェクトが複数あることを示しています。

図 5 Rational 成果物と Rational プロジェクトとの関係



# Rational プロジェクトの 作成と設定

# 3

この章では、Rational プロジェクトを作成し、設定する方法について説明します。

## Rational プロジェクトの作成

---

Rational プロジェクトを作成するには、次の手順を実行します。各手順の詳しい内容は、この項の以降のページで説明します。

- 1 プロジェクトの格納場所を決定します。
- 2 プロジェクトを保存する共有ディレクトリを作成します。
- 3 プロジェクトを作成します。

この項の後半では、Rational プロジェクトを設定する方法について説明します。

### プロジェクトの格納場所の決定

以下のガイドラインに従って、プロジェクトの格納場所を決定します。

- Rational プロジェクトには、Rational Suite ツールのデータベースへのポインタが格納されます。したがって、ほかのツールのデータベースはネットワーク システムの任意の場所に配置できます。
- 作業を進める前に、プロジェクトの最上位レベルのディレクトリを作成します。このディレクトリは空にして、共有ディレクトリとして設定します。詳細については、28 ページの「共有ディレクトリの作成」を参照してください。このディレクトリを共有しない場合、チームのほかのメンバーはプロジェクトを使用できません。
- UCM を使用している場合は、Rational プロジェクトの検索で特別に考慮すべき事項があります。詳細については、『Rational Suite 統一変更管理 (UCM) ユーザーズ ガイド』を参照してください。
- Rational プロジェクトのパス名はできる限り簡単にし、文字長は半角 256 文字以内に収めてください。長いパス名を使用すると、Rational TestManager でデータストア エラーが発生する可能性が高くなります。

## 共有ディレクトリの作成

Rational プロジェクトを作成する前に、プロジェクト ファイルを入れるディレクトリを指す共有名を作成します。

- 1 Rational プロジェクトを作成するコンピュータ上に、ディレクトリを作成します。バージョン管理下でない領域を選択します。つまり、VOB 以外の領域を選択します。
- 2 手順 1 で作成したディレクトリを指す共有名を作成します。
  - a Windows エクスプローラで、対象のディレクトリに移動し、ディレクトリ名を選択します。
  - b [ファイル] メニューの [共有] をクリックします。
- 3 ディレクトリのプロパティ ページの [共有] タブで、次の操作を行います。
  - a [このフォルダを共有する] をクリックします。
  - b [共有名] ボックスに、ディレクトリを説明するわかりやすい名前 (たとえば **rational-project**) を入力します。
  - c [OK] をクリックします。

ディレクトリを共有にすると、ユーザーやほかのプログラムから UNC パス名を使用してネットワーク経由で Rational プロジェクトにアクセスできるようになります。UNC パス名の使用法や、どのような場合に使用すべきかについては、Windows のオンライン ヘルプを参照してください。

## Rational プロジェクトの作成

Rational プロジェクトを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 Windows の [スタート] メニューから [プログラム]、[Rational Suite] の順にポイントし、[Rational Administrator] をクリックして Rational Administrator を起動します。
- 2 Administrator で [ファイル] メニューの [新規プロジェクトの作成] をクリックして、新規プロジェクトの作成ウィザードを起動します。
- 3 ウィザードの最初のページで、次の操作を実行します。
  - a プロジェクトの名前 (たとえば **revenue**) を入力します。このダイアログ ボックスでは、規定外の文字は入力できません。
  - b [プロジェクトの場所] フィールドに、作成した共有名を参照する、プロジェクトのルートへの UNC パス名 (たとえば **¥¥computer-name¥rational-project¥revenue**) を指定します。少なくとも、この共有のサブディレクトリにはパスを指定するようにしてください。例では、**rational-project** が共有であるため、最低 1 レベル下のディレクトリを指定する必要があります。

- c UCM を使用するプロジェクトは扱わないため、[ClearCase と統一変更管理ツール (UCM) を使用してプロジェクト アセットのベースラインを作成する] チェック ボックスをオフにします。詳細については、『Rational Suite 統一変更管理 (UCM) ユーザーズ ガイド』を参照してください。
- 4 作成した Rational プロジェクトにパスワードを設定する場合は、[セキュリティ] ページにパスワードを入力します。パスワードを設定しない場合は、このページのフィールドは空欄のままにします。
- 5 概要ページで [プロジェクトを今すぐ設定] を選択します。[プロジェクトの設定] ダイアログ ボックスが表示されます。

## Rational プロジェクトの設定

---

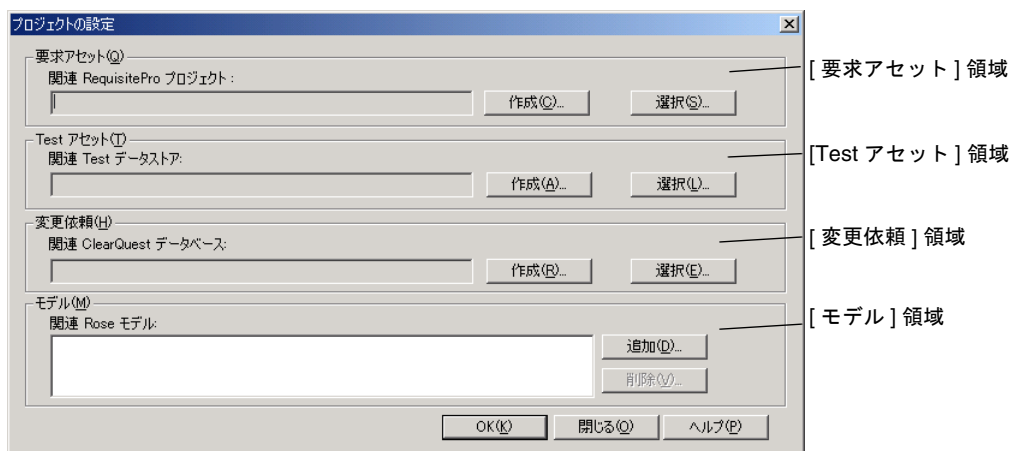
Rational プロジェクトを設定するには、そのプロジェクトを次の成果物と関連付けます。

- 1 つの RequisitePro プロジェクト (なくても可)
- 1 つのテスト データストア (なくても可)
- 1 つの ClearQuest データベース (なくても可)
- Rose モデル ファイル (ファイル数に制限はなし)

[プロジェクトの設定] ダイアログ ボックスが表示されない場合は、次の手順に従って表示します。

- 1 Rational Administrator で設定するプロジェクトを選択して、[ファイル] メニューの [接続] をクリックします。必要な場合は、パスワードを入力します。
- 2 設定するプロジェクトを選択し、[ファイル] メニューの [プロジェクトの設定] をクリックします。図 6 に示すような [プロジェクトの設定] ダイアログ ボックスが表示されます。

図 6 [プロジェクトの設定] ダイアログ ボックス



## ClearQuest MultiSite の操作

ClearQuest MultiSite を使用すると、ClearQuest データベースのレプリカを作成し、複数のサイト間でそのデータベースへのアクセスを共有できます。

ClearQuest データベースのレプリカを作成している場合、Rational プロジェクトを設定できるのは、現在使用しているデータベースのレプリカが RA\_Project レコードのマスターシップを有している場合のみです。

## 要求の関連付け

RequisitePro プロジェクトによって、関連する要求のセットが体系化され、ユーザーによる管理が容易になります。各 RequisitePro プロジェクトには、要求データベース、ドキュメント、ディスカッション、履歴、その他の管理関連の項目が含まれています。

新規 RequisitePro データベースを作成したり、既存のデータベースを関連付けることができます。

## 新規 RequisitePro プロジェクトの作成

新規 RequisitePro プロジェクトを作成するには

- 1 [プロジェクトの設定] ダイアログ ボックスの [要求アセット] 領域で、[作成] をクリックします。[Rational RequisitePro プロジェクトの作成] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 2 プロジェクト テンプレート (たとえば、ユース ケース テンプレート) を選択し、[作成] をクリックします。

**3** [プロジェクトのプロパティ] ダイアログ ボックスで、次の操作を実行します。

- a** [名前] フィールドで、RequisitePro プロジェクトの名前を指定します。
- b** [ディレクトリ] フィールドで、UNC パス名を使用して、要求を保存する場所を指定します。たとえば、`\\computerA\project-directory\requirements` と指定します。
- c** [データベース] フィールドで、RequisitePro プロジェクトで使用するデータベースの種類を指定します。このデータベースは、16 ページの「データベースの設定」で設定済みです。
- d** 必要に応じて、RequisitePro プロジェクトの内容を説明するコメントを入力します。
- e** [OK] をクリックします。プロジェクトが作成されます。

## 既存の RequisitePro プロジェクトと Rational プロジェクトの関連付け

既存の RequisitePro プロジェクトを Rational プロジェクトに関連付けるには

- 1** [プロジェクトの設定] ダイアログ ボックスの [要求アセット] 領域で、[選択] をクリックします。[RequisitePro プロジェクト ファイルの選択] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 2** Rational プロジェクトに関連付ける RequisitePro プロジェクト ファイルを検索し、選択します。

## RequisitePro と XDE の統合機能

RequisitePro と XDE™ の統合機能を使用して、RequisitePro プロジェクトと XDE モデルを関連付けることができます。

この統合機能を有効利用するためには、XDE を使用して RequisitePro プロジェクトを XDE 形式に変換します。変換後も、Rational Administrator には元のバージョンの RequisitePro プロジェクトが変換前のままの形で表示されます。Rational Administrator では、RequisitePro の変換後のバージョンは表示されません。

**警告:** 変換後は、元の RequisitePro プロジェクトは不要になり、使用できません。RequisitePro プロジェクトを XDE に変換した後は、XDE を使用してプロジェクトを管理します。

詳細については、XDE のオンライン ヘルプで移行に関する記述、XDE のリリース ノートで互換性に関する情報を参照してください。

## テスト データストアの関連付け

Rational Test のテスト データストアには、テスト スクリプト、スイート、データプール、ログ、レポート、テスト計画、ビルド情報など、関連するテスト アセットがまとめて格納されています。

新規テスト データストアを作成することも、既存のテスト データストアに関連付けを設定することもできます。

### 新規テスト データストアの作成

新規テスト データストアを作成するには

- 1 [プロジェクトの設定] ダイアログ ボックスの [Test アセット] 領域で、[作成] をクリックします。テスト データストアの作成ウィザードが起動します。
  - 2 ウィザードの最初のページで、使用する製造元データベースを選択します。[次へ] をクリックします。
  - 3 ウィザードの 2 ページ目で、作成するテスト データストアの UNC パス名 (¥¥computerA¥project-directory¥tests など) と、手順 2 で選択した製造元データベースに固有のその他の情報を指定します。[次へ] をクリックします。
  - 4 ウィザードの 3 ページ目で、適切な初期化オプションを選択し、[次へ] をクリックします。
  - 5 概要ページが表示され、ウィザードが完了したことを示します。[完了] をクリックします。
- これで、テスト データストアが正しく作成されました。

### 既存のテスト データストアとプロジェクトの関連付け

既存のテスト データストアをプロジェクトに関連付けるには

- 1 [プロジェクトの設定] ダイアログ ボックスの [Test アセット] 領域で、[選択] をクリックします。[Select Test Datastore] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 2 Rational プロジェクトに関連付けるテスト データストアを検索して選択するか、テスト データストアが保存されている場所の UNC パス名を入力します。

**メモ:** データストアをプロジェクトに関連付ける前に、そのデータストアに対して Datastore Doctor を実行することをお勧めします。Datastore Doctor の詳細については、オンライン ヘルプを参照してください。

## ClearQuest データベースの関連付け

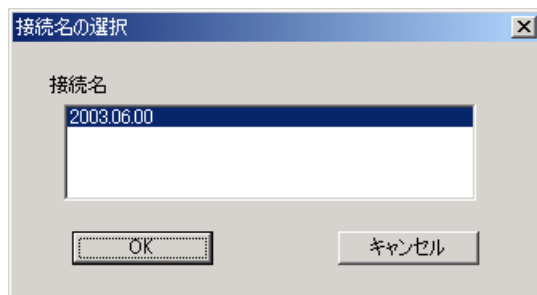
Rational ClearQuest は変更依頼を管理するためのツールです。ClearQuest では、Rational のプロジェクトに関連付けられたすべての変更アクティビティ (障害や拡張依頼など) を追跡し、管理できます。

**メモ:** ここで説明する手順を実行する前に、ClearQuest に対するデータベース接続名として 2003.06.10 が定義されていることを確認します。この確認作業を行うには、ClearQuest メンテナンス ツールを起動し、ツールの左側のペインに接続名 2003.06.10 が表示されていることを確認します。特に指定しない限り、この接続名がデフォルトとして使用されます。

次の手順を実行し、既存の ClearQuest ユーザー データベースを Rational プロジェクトに関連付けます。

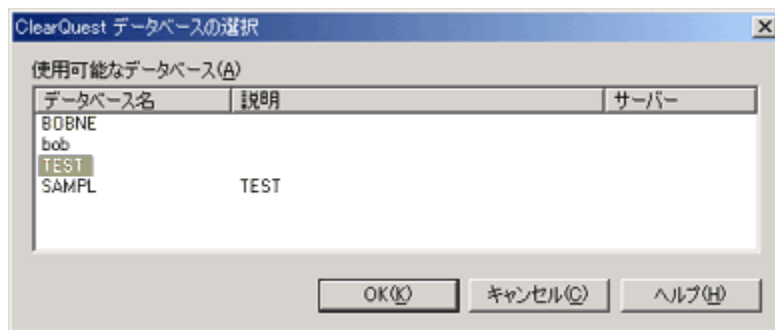
- 1 29 ページの「Rational プロジェクトの設定」で説明した手順に従い、[プロジェクトの設定] ダイアログ ボックスを表示し、必要な設定を行います。
- 2 [プロジェクトの設定] ダイアログ ボックスの [変更依頼] 領域で、[選択] をクリックします。
- 3 [接続名の選択] ダイアログ ボックス (図 7) で、使用する ClearQuest データベースに関連付けられているデータベース接続を選択します。[OK] をクリックします。

図 7 [接続名の選択] ダイアログ ボックス



- 4 [ClearQuest データベースの選択] ダイアログ ボックス (図 8) の [データベース名] で、Rational プロジェクトに関連付けるデータベースをクリックして選択します。[OK] をクリックします。

図 8 [ClearQuest データベースの選択] ダイアログ ボックス



これで、選択した接続で ClearQuest データベースが Rational プロジェクトに関連付けられます。

## Rose モデルの関連付け

Rational Rose では、アーキテクチャ、コンポーネント、データのビジュアル モデリングが可能です。これにより、ソフトウェア モデルとその実装間の整合性を維持するプロセスを自動化することができます。Rose モデルをプロジェクトに関連付ける前に、34 ページの「Rose での仮想パス マップの確立」を参照してください。

### Rose での仮想パス マップの確立

Rose では、モデルとモデルの一部への内部絶対パス名を管理しています。つまり、Rose モデルをほかの開発者と共有する場合、同じ Rose モデルにアクセスする際に、ドライブ文字を含めてまったく同じパスを使用しなければなりません。この制約に対処するには、次のように仮想パス マップを設定します。

- 1 Rose を起動します。[スタート] をクリックして、[プログラム] をポイントします。  
次に、[Rational Suite] をポイントし、[Rational Rose] をクリックします。
- 2 作業する Rose モデルを開きます。
- 3 Rose の [ファイル] メニューの [パス マップの編集] をクリックして、[仮想パス マップ] ダイアログ ボックスを表示します。
- 4 [仮想パス マップ] ダイアログ ボックスで、次の操作を実行します。
  - a [シンボル] フィールドに「CURDIR」と入力します。
  - b [実パス] フィールドに「&」と入力します。

- c [追加] をクリックします。

[仮想シンボルと実パスのマッピング] リストに、次の行が表示されます。

```
$CURDIR      =&
```

- d [閉じる] をクリックします。

5 Rose を終了します。

6 Rose を再度起動し、Rose モデルを開き、Rose を終了します。

仮想パス マップの詳細については、Rose のヘルプで [仮想パス マップ] ダイアログ ボックスに関するトピックを参照してください。

## Rose ファイルと Rational プロジェクトの関連付け

既存の Rose モデルを Rational プロジェクトに関連付けるには

- 1 [プロジェクトの設定] ダイアログ ボックスの [モデル] 領域で、[追加] をクリックします。  
[Rose モデルの追加] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 2 作業する Rose モデルを検索して選択します。

## Rational Rose から XDE への移行

Rational XDE を使用して、Rose モデル (.mdl ファイル) を XDE モデル (.mdx ファイル) に移行できます。ただし、Rational Administrator は XDE モデルをサポートしていないことに注意してください。

Rose から XDE に移行した後も、Rational Administrator には、XDE に移行した時点の状態の Rose モデル (.mdl) が表示されます。新しい移行後の XDE モデル (.mdx) は、Rational Administrator には表示されません。

**警告：** Rose モデル (.mdl ファイル) を XDE に移行した後も、Rose モデルを変更することは可能です。ただし、.mdl モデルと .mdx モデルは同期されないため、このような変更作業はお勧めできません。Rose モデルを XDE に移行した後は、XDE を使用してモデルを管理し、その他の XDE 統合機能を使用できます。



# Rational プロジェクトの 使用

# 4

この章では、Rational プロジェクトでの作業中に実行可能な管理タスクについて詳しく説明します。

## Rational プロジェクトへの接続

---

Rational プロジェクトの設定や削除、または Rational Test のユーザーとグループを管理するには、まずそのプロジェクトに接続する必要があります。Rational プロジェクトに接続すると、関連付けられたデータストア、プロジェクト、データベースのプロパティを表示できます。

Rational プロジェクトに接続するには、次の手順を実行します。

- 1 Rational Administrator の [ファイル] メニューの [接続] をクリックします。
- 2 [接続] ダイアログ ボックスに、まだ接続されていないすべての Rational プロジェクトのリストが表示されます。接続するプロジェクトを選択し、[OK] をクリックします。
- 3 必要に応じて Rational プロジェクトのパスワードを入力し、[OK] をクリックします。

## Rational プロジェクトの登録

---

既に作成されている Rational プロジェクトを、そのプロジェクトを作成したコンピュータ以外のコンピュータ上で管理するには、その Rational プロジェクトを登録する必要があります。Rational プロジェクトの登録は、そのプロジェクトを作成し、設定したコンピュータで行います。

- 1 Rational Administrator の [ファイル] メニューの [プロジェクトの登録] をクリックします。
- 2 [Rational プロジェクトの選択] ダイアログ ボックスで、対象の Rational プロジェクトを選択して [開く] をクリックします。

プロジェクトを登録すると、Rational Administrator の左側ペインのプロジェクト階層にそのプロジェクトの名前が表示されます。

## Rational プロジェクトの登録解除

---

不要になった Rational プロジェクトについては、プロジェクトの登録を解除し、Rational Administrator からプロジェクト名と詳細情報を削除できます。Rational プロジェクトの登録を解除しても、実際にそのプロジェクトが削除されるわけではありません。プロジェクトの登録解除後も、そのプロジェクトを再登録して再び使用することができます。

- 1 Rational Administrator で、[ファイル] メニューの [プロジェクトの登録解除] をクリックします。
- 2 登録を解除するプロジェクトを選択し、[OK] をクリックします。

## Rational プロジェクトのプロパティの使用

---

Rational プロジェクトのプロパティを表示したり、プロジェクトのパスワードを編集するには、次の手順を実行します。

- 1 Rational プロジェクトに接続します。詳細については、37 ページの「Rational プロジェクトへの接続」を参照してください。
- 2 [編集] メニューの [プロパティ] をクリックします。  
  
[全般] タブに、Rational プロジェクトの名前と場所が表示されます。ただし、これらの情報は編集はできません。  
  
[セキュリティ] タブでは、Rational プロジェクトのパスワードを変更できます。
- 3 プロパティを表示または変更して、[OK] をクリックします。
- 4 変更内容を確認するには、[表示] メニューの [更新] をクリックするか、プロジェクトの接続を解除してから再接続します。

## Rational プロジェクトからの切断

---

Rational プロジェクトでの作業が終了したら、そのプロジェクトとの接続を解除できます。プロジェクトの接続を解除した後で、もう一度同じプロジェクトに接続すると、プロジェクトのプロパティに対して行った変更内容が反映されます。

- 1 Rational Administrator の [ファイル] メニューの [切断] をクリックします。
- 2 登録されている接続中の Rational プロジェクトのリストが [切断] ダイアログ ボックスに表示されます。接続を解除する Rational プロジェクトを選択して、[OK] をクリックします。

## Rational プロジェクトの再配置

---

Rational プロジェクトには、RequisitePro プロジェクトや Rose モデルなど、ほかの成果物への関連付けも保存されます。したがって、プロジェクトの保存場所を変更しないことが重要です。しかし、場合によっては、Rational プロジェクトを再配置しなければならないこともあります。

たとえば、次のような場合はプロジェクトを再配置する必要があります。

- Rational プロジェクト (.rsp) ファイルが保存されているサーバーを廃棄する場合
- データの一貫性に問題が見つかったサーバーからプロジェクトを移動させる場合
- インストール先のアーキテクチャ構成を整理統合する場合

**メモ:** ここで説明する手順では、UCM が有効な Rational プロジェクトは再配置できません。

### Rational プロジェクトの再配置の準備

Rational プロジェクトを再配置する前に、次の処理を実行する必要があります。

- 1 Rational プロジェクトの最終的な保存場所を選択します。対象の Rational プロジェクトを使用するすべてのユーザーがアクセスできる、安定したコンピュータを選択してください。
- 2 選択したコンピュータ上に共有ディレクトリを作成します (28 ページの「共有ディレクトリの作成」を参照)。最終的に、このディレクトリに Rational プロジェクトが保存されます。後で参照できるように、作成するディレクトリの名前をこの欄に記録しておいてください。

- 
- 3 手順 2 で作成した共有ディレクトリに、一意の名前を持つ新しいディレクトリを作成します。このディレクトリ名は、既存の Rational プロジェクトとは異なる名前にしてください。再配置後の Rational プロジェクト名は、ここで作成するディレクトリと同じ名前になります。後で参照できるように、作成するディレクトリの名前をこの欄に記録しておいてください。

- 
- 4 既存の Rational プロジェクト (.rsp) ファイルの場所を検索します。通常は、以前作成した共有ディレクトリにあり、ディレクトリ構造は次のようになっているはずです。

¥¥computer-name¥shared-directory-name¥Rational-project-name¥project.rsp

各項目の説明は以下のとおりです。

- **computer-name** は、Rational プロジェクトが現在保存されているコンピュータの名前です。
- **shared-directory-name** は、Rational プロジェクトが現在保存されている共有ディレクトリの名前です。

- **Rational-project-name** は、Rational プロジェクトが現在保存されているディレクトリの名前です。Administrator は、Rational プロジェクトの名前に応じてこのディレクトリの名前を設定します。
- **project.rsp** は、Rational プロジェクトの名前です。

既存の Rational プロジェクトの場所を後で参照できるように、この欄に記録しておいてください。

---

- 5 Windows 上で、バックアップと障害回復用に、**Rational-project-name** ディレクトリ (Rational プロジェクト ファイルだけでなくディレクトリ全体) をリムーバブル記憶装置 (フロッピー ディスク、CD など) にコピーします。

**メモ:** このディレクトリを保存した場所は、以降の手順で必要となるため記録しておいてください。

- 6 Rational プロジェクトを再配置するには、そのプロジェクトに関連付けられている各成果物も再配置する必要があります。Rational プロジェクトに関連付けられている成果物は、Administrator の詳細ペイン (右側のペイン) で確認できます。

## Rational プロジェクトの再配置の概要

Rational プロジェクトを再配置するには、次の手順を実行します。

- 1 RequisitePro プロジェクトを再配置します。
- 2 再配置前の Rational プロジェクトを削除します。
- 3 新規 Rational プロジェクトを作成します。
- 4 再配置した RequisitePro プロジェクトを新規 Rational プロジェクトに関連付けます。
- 5 テスト成果物を新規 Rational プロジェクトに関連付けます。
- 6 必要に応じて、ClearQuest データベースを再配置します。
- 7 ClearQuest データベースを新規 Rational プロジェクトに関連付けます。
- 8 Rose モデルを新規 Rational プロジェクトに関連付けます。

# RequisitePro プロジェクトの再配置

Rational プロジェクトに RequisitePro プロジェクトが関連付けられている場合は、次の手順で RequisitePro プロジェクトを再配置します。それ以外の場合は、42 ページの「再配置前の Rational プロジェクトの削除」へ進みます。

- 1 RequisitePro プロジェクト (.rqs) ファイルの場所を特定します。通常は、以前作成した共有ディレクトリにあり (28 ページの「共有ディレクトリの作成」を参照)、ディレクトリ構造は次のようになっているはずです。

```
¥¥computer-name¥shared-directory-name¥Rational-project-name¥RequisitePro-project-name¥RequisitePro-project.rqs
```

各項目の説明は以下のとおりです。

- **computer-name** は、Rational プロジェクトが現在保存されているコンピュータの名前です。
- **shared-directory-name** は、Rational プロジェクトが現在保存されている共有ディレクトリの名前です。
- **Rational-project-name** は、Rational プロジェクトが現在保存されているディレクトリの名前です。Administrator は、Rational プロジェクトの名前に応じてこのディレクトリの名前を設定します。
- **RequisitePro-project-name** は、RequisitePro プロジェクトが現在保存されているディレクトリの名前です。RequisitePro プロジェクトの作成ウィザード (Administrator から起動します) でプロジェクトの作成時に付けたプロジェクト名と同じ名前になります。
- **RequisitePro-project.rqs** は、RequisitePro プロジェクトの名前です。

また、再配置先でも再配置前と同じディレクトリ構造を維持する必要があります。

- 2 表 5 の手順に従って、RequisitePro プロジェクトを配置します。

どの手順を実行するかは、RequisitePro で使用する製造元データベースによって異なります。RequisitePro プロジェクトを移動する場合は、事前に必ずデータベース管理者と RequisitePro 管理者に通知してください。

表 5 製造元データベース別の RequisitePro プロジェクトの再配置手順

RequisitePro で使用する製造元データベース	RequisitePro プロジェクトの移動手順
Microsoft Access	RequisitePro プロジェクトが保存されている RequisitePro-project-name ディレクトリを、39 ページの「Rational プロジェクトの再配置の準備」で選択した移動先ディレクトリにコピーします。  RequisitePro-project-name ディレクトリ内の RequisitePro プロジェクトファイルだけでなく、そのディレクトリ全体をコピーしてください。

表 5 製造元データベース別の RequisitePro プロジェクトの再配置手順 ( 続き )

RequisitePro で使用する 製造元データベース	RequisitePro プロジェクトの移動手順
Microsoft SQL Server	RequisitePro プロジェクトを同一コンピュータ上の別の場所に再配置するか、別のコンピュータに再配置するかによって、実行する処理が異なります。Microsoft SQL Server 環境で RequisitePro プロジェクトを移動する手順については、Rational カスタマ サポートに最新情報をお問い合わせください。
Oracle	Oracle 環境で RequisitePro プロジェクトを移動する手順については、Rational カスタマ サポートに最新情報をお問い合わせください。

## 再配置前の Rational プロジェクトの削除

Rational プロジェクト ディレクトリを確実にバックアップし、39 ページの「Rational プロジェクトの再配置の準備」の手順を実行した後で、現在の場所からプロジェクトを削除します。

プロジェクトを削除するには、次の手順を実行します。

- 1 Rational Administrator のプロジェクト ( 左側 ) ペインで、削除するプロジェクトを選択します。
- 2 [ファイル] メニューの [プロジェクトの削除] をクリックします。
- 3 プロジェクトを削除するには、[OK] をクリックします。

## 新規 Rational プロジェクトの作成

元の Rational プロジェクトを削除した後、一意の名前を持つ新規 Rational プロジェクトを作成します。新規プロジェクトを作成して設定するには、次の手順を実行します。

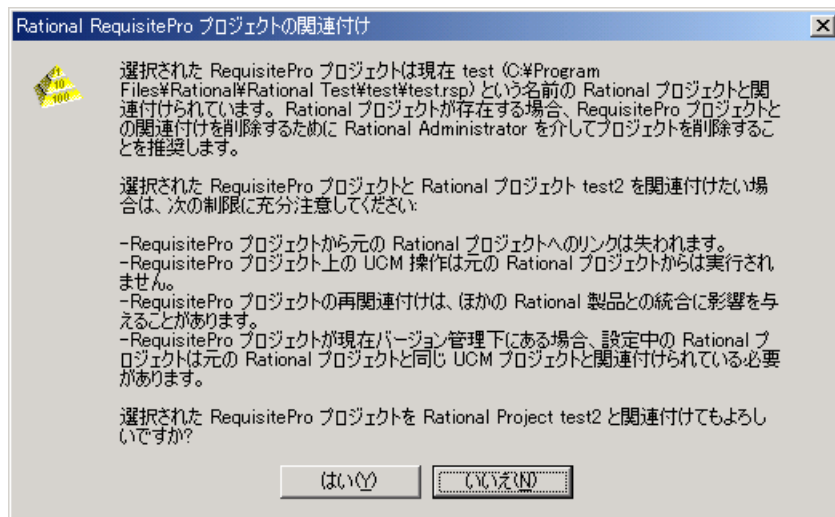
- 1 Rational Administrator で、[ファイル] メニューの [新規プロジェクトの作成] をクリックします。[新規プロジェクトの作成 - 全般] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 2 [プロジェクト名] フィールドに、39 ページの「Rational プロジェクトの再配置の準備」の手順 3 で入力した一意のディレクトリ名を入力します。  
  
[プロジェクトの場所] フィールドに、39 ページの「Rational プロジェクトの再配置の準備」で作成した再配置先ディレクトリの UNC パス名を入力します  
(¥¥computer-name¥shared-directory-name¥unique-directory-name など)。  
[次へ] をクリックします。
- 3 必要に応じて、プロジェクトのパスワードを入力します。[次へ] をクリックします。
- 4 [新規プロジェクトの作成 - 概要] 画面に表示される概要情報を確認します。情報が正しい場合は、[プロジェクトを今すぐ設定] を選択し、[完了] をクリックします。情報が正しくない場合は、[キャンセル] をクリックし、プロジェクトを作成し直します。

## RequisitePro プロジェクトと新規 Rational プロジェクトの関連付け

41 ページの「RequisitePro プロジェクトの再配置」で移動した RequisitePro プロジェクトを新規 Rational プロジェクトに関連付けるには、次の手順を実行します。

- 1 Rational Administrator の左側のペインで、42 ページの「新規 Rational プロジェクトの作成」で作成した Rational プロジェクトを選択します。
- 2 [ファイル] メニューの [プロジェクトの設定] をクリックします。
- 3 [プロジェクトの設定] ダイアログ ボックスの [要求アセット] 領域で、[選択] をクリックします。
- 4 [RequisitePro プロジェクト ファイルの選択] ダイアログ ボックスで、41 ページの「RequisitePro プロジェクトの再配置」で移動した RequisitePro プロジェクトを検索して選択し、[OK] をクリックします。
- 5 図 9 に示す [Rational RequisitePro プロジェクトの関連付け] ダイアログ ボックスが表示されます。[はい] をクリックし、RequisitePro プロジェクトを新規 Rational プロジェクトに関連付けます。

図 9 [Rational RequisitePro プロジェクトの関連付け] ダイアログ ボックス



- 6 [Rational RequisitePro プロジェクトの関連付け] ダイアログ ボックスの [閉じる] をクリックし、関連付け処理を終了します。

以上の手順で、RequisitePro プロジェクトを新規 Rational プロジェクトに関連付けることができます。

## テスト成果物と新規 Rational プロジェクトの関連付け

42 ページの「新規 Rational プロジェクトの作成」で作成した Rational プロジェクトにテスト成果物を関連付けるには、次の手順を実行する必要があります。

- 既存のテスト データストアからテスト アセットを作成し、それらのテスト アセットを新規 Rational プロジェクトに関連付けます。
- 既存のユーザーとグループを新規 Rational プロジェクトに関連付けます。

## 新規 Rational プロジェクトに関連付けるテスト アセットの作成

次の手順を実行し、既存のテスト データストアから新規テスト データストアを作成し、新規テスト データストアを新規 Rational プロジェクトに関連付けます。

- 1 Rational Administrator の左側のペインで、42 ページの「新規 Rational プロジェクトの作成」で作成した Rational プロジェクトを選択します。
- 2 [ファイル] メニューの [プロジェクトの設定] をクリックします。
- 3 [プロジェクトの設定] ダイアログ ボックスの [Test アセット] 領域で、[作成] をクリックします。
- 4 ウィザードの最初のページで、使用する製造元データベースを選択します。[次へ] をクリックします。
- 5 ウィザードの 2 ページ目で、作成するテスト データストアの UNC パス名 (¥¥computerA¥project-directory¥tests など) と、手順 4 で選択した製造元データベースに固有のその他の情報を指定します。[次へ] をクリックします。
- 6 ウィザードの 3 番目のページで、[Initialize Assets from the following Test Datastore] チェック ボックスをオンにします。元の Rational プロジェクトのバックアップ コピーを作成したディレクトリに移動します (39 ページの「Rational プロジェクトの再配置の準備」の手順 5 を参照)。元のテスト データストアを検索して選択します。
- 7 次に、同じウィザード ページで、[Rational プロジェクトから Test ユーザーとグループを初期化] チェック ボックスをオンにします。元の Rational プロジェクトのバックアップ コピーを作成したディレクトリに移動します (39 ページの「Rational プロジェクトの再配置の準備」の手順 5 を参照)。元の Rational プロジェクトを検索して選択します。
- 8 [次へ] をクリックし、[概要] ページを表示します。
- 9 [完了] をクリックし、ウィザードを終了します。

以上の手順で、元のテスト データストアを基に新規テスト データストアを作成し、新規 Rational プロジェクトに関連付けることができます。また、元の Rational プロジェクトに対して作成したユーザーとグループも新規 Rational プロジェクトに関連付けられます。

## ClearQuest データベースの再配置

通常は Rational プロジェクトの保存場所を変更しても、ClearQuest データベースを再配置する必要はありませんが、次の場合は例外です。

- Rational プロジェクトとそのプロジェクトに関連付けられたすべての成果物が 1 台のローカル コンピュータに保存されている場合
- 今後使用しないサーバーに ClearQuest データベースを保存している場合

ClearQuest データベースを再配置する必要がある場合は、ClearQuest Designer を使用します。データベースの移動手順については、『Rational ClearQuest 管理ガイド』を参照してください。

## ClearQuest データベースと新規 Rational プロジェクトの関連付け

元の Rational プロジェクトで使用していた ClearQuest データベースを、新しく作成した Rational プロジェクトに関連付けるには、次の手順を実行します。

- 1 Rational Administrator の左側のペインで、42 ページの「新規 Rational プロジェクトの作成」で作成した Rational プロジェクトを選択します。
- 2 [ファイル] メニューの [プロジェクトの設定] をクリックします。
- 3 [プロジェクトの設定] ダイアログ ボックスの [変更依頼] 領域で、[選択] をクリックします。
- 4 [接続名の選択] ダイアログ ボックスで、データベース接続を選択します。
- 5 [ClearQuest データベースの選択] ダイアログ ボックスで、元の Rational プロジェクトで使用していた ClearQuest データベースの名前を選択します。
- 6 [OK] をクリックします。

以上の手順で、ClearQuest データベースを新規 Rational プロジェクトに関連付けることができます。

## Rose モデルと新規 Rational プロジェクトの関連付け

元の Rational プロジェクトで使用していた Rose モデルを、新しく作成した Rational プロジェクトに関連付けるには、次の手順を実行します。

- 1 Rational Administrator の左側のペインで、42 ページの「新規 Rational プロジェクトの作成」で作成した Rational プロジェクトを選択します。
- 2 [ファイル] メニューの [プロジェクトの設定] をクリックします。
- 3 [プロジェクトの設定] ダイアログ ボックスの [モデル] 領域で、[追加] をクリックします。
- 4 [Rose モデルの追加] ダイアログ ボックスで、元の Rational プロジェクトに関連付けられていたモデルの保存場所に移動します。新規 Rational プロジェクトに関連付けるモデルを選択します。

- 5 [開く] をクリックします。

以上の手順で、Rose モデルを新規 Rational プロジェクトに関連付けることができます。

## Rational プロジェクトの削除

---

場合によっては、Rational プロジェクトを削除する必要があることがあります。Rational プロジェクトに関連付けられている成果物が既に不要になっている場合や、その保存場所が変更された場合は、そのプロジェクトを削除して新規プロジェクトを作成した方が、管理が簡単です。

**メモ:** Rational プロジェクトを削除する際には、Windows のエクスプローラやその他のプログラムは使用せず、必ず Rational Administrator を使用してください。

Rational プロジェクトを削除する前には、次の処理を実行してください。

- プロジェクトを削除した場合の影響について検討します。統合している Rational Suite の成果物があるかどうか、それらをその後も維持する必要があるかどうかを考慮してください。必要なときのために、回復計画を立てておきます。
- チームのメンバー全員にプロジェクトを削除することを伝えます。ほかの Rational 製品を管理しているメンバーには、必ず伝えるようにしてください。
- Rational プロジェクトのバックアップ コピーを作成します。

Rational プロジェクトを削除した場合の影響を、以下に示します。

- プロジェクトの登録が解除されます。
- 複数のプロジェクト、データストア、データベース間の関連付けは削除されますが、成果物そのものは削除されません。
- プロジェクトは完全に削除されます。

Rational プロジェクトを完全に削除するには、次の手順を実行します。

- 1 Rational Administrator のプロジェクト (左側) ペインで、削除するプロジェクトを選択します。
- 2 [ファイル] メニューの [プロジェクトの削除] をクリックします。
- 3 プロジェクトを削除するには、[OK] をクリックします。

## ClearQuest MultiSite の操作

ClearQuest MultiSite を使用すると、ClearQuest データベースのレプリカを作成し、複数のサイト間でそのデータベースへのアクセスを共有できます。

ClearQuest データベースのレプリカを作成している場合、Rational プロジェクトを設定できるのは、現在使用しているデータベースのレプリカが RA\_Project レコードのマスターシップを有している場合のみです。

## SQL Anywhere の使用

---

Rational Administrator から Sybase Central、ISQL、その他の Sybase ツールを使用し、SQL Anywhere データベースを活用することができます。

### Sybase Central

Sybase Central ツールを使用すると、Sybase SQL Anywhere データベースの作成、バックアップ、圧縮などの機能を実行できます。

Sybase Central ツールを使用するには、[ツール] メニューの [Sybase Central] をクリックします。

### ISQL

ISQL ツールを使用すると、SQL Anywhere データベースに対して対話型の SQL クエリーを生成できます。

ISQL ツールを使用するには、[ツール] メニューの [ISQL] をクリックします。

Sybase Central または ISQL の用法については、Sybase Central データベース管理ツールのヘルプを参照してください。



# テスト ユーザーとテスト グループの管理

# 5

この章では、Rational Test のユーザーとグループについて説明します。ここでは、次の内容について説明します。

- Rational Test のユーザーとグループの構造の理解
- Rational Test のユーザー、グループ、アセットの管理

## Rational Test のユーザーとグループの理解

---

ここでは、Rational Test のユーザーとグループについて説明します。Rational Test のユーザー、グループ、関連付けられているアセットを管理するには、ここで説明する内容を理解しておく必要があります。

### テスト ユーザー

テスト ユーザーは、通常は QA マネージャ、開発者、テスト エンジニアであり、Rational Test のコンポーネントを使用して、テスト スクリプトの作成、編集、実行、監視、分析、管理を行います。

各テスト ユーザーに対して、以下の情報を指定できます。

- ユーザー ID
- パスワード
- 名
- 姓
- 会社
- 役職
- 部署
- 電話番号
- 電子メール アドレス

テスト ユーザーには、Rational Test のテスト データストアで次のアセットを作成、変更、削除する権限を設定できます。

- Test 計画アセット
- Test 実装アセット
- Test 実行アセット
- Test 結果分析アセット

## テスト グループ

ユーザー グループ (テスト グループ) の権限を設定してから、テスト グループにユーザーを追加して、各ユーザーに権限を割り当てます。テスト ユーザーをテスト グループに追加すると、テスト ユーザーはそのテスト グループの権限を取得します。テスト ユーザーは 1 つまたは複数のテスト グループのメンバーになることができます。

また、任意のグループをデフォルト グループとして定義したり、複数のデフォルト グループを指定することもできます。作成したすべての テスト ユーザーは、デフォルトのグループの権限を持ちます。

Rational Administrator を使用して Rational プロジェクトを作成すると、[Test ユーザー] フォルダと [Test グループ] フォルダがデフォルトで作成されます。これらのフォルダは Rational Administrator ウィンドウの左側のペインで、[Rational Test データストア] の下に表示されます。

## Admin テスト ユーザー

Rational Test のテスト データストアを作成すると、Admin テスト ユーザーも作成されます。この Admin テスト ユーザーは、[Test ユーザー] フォルダの下に表示されます。Admin テスト ユーザーは、特定のテスト グループには属さず、利用可能な権限をすべて有しています。

Admin テスト ユーザーは、次の操作を実行できます。

- テスト アセット、レポート、ビルド、ログの作成、変更、削除
- テスト アセットやビルドのカスタマイズ

## Admin テスト ユーザーのセキュリティ

Admin テスト ユーザーには、デフォルトではパスワードが設定されていません。つまり、パスワードを入力せずに、Admin テスト ユーザーとしてログインできます。このため、初めてソフトウェアをインストールした後に、任意の Rational Test コンポーネントにログインできます。

プロジェクトへの初回接続時には、Admin テスト ユーザーのパスワードを定義して、権限のないユーザーがプロジェクトにアクセスできないようにする必要があります。Admin テスト ユーザーは、完全なテスト ユーザー アクセス権限を有しているため、プロジェクトから削除することはできません。

## テスト ユーザーとテスト グループの管理

次に説明する手順を実行して、Rational Test のテスト データストアに対して定義したユーザーとグループを管理維持します。

### テスト グループまたはテスト ユーザーの追加

テスト グループまたはテスト ユーザーを追加するには、Admin テスト ユーザー権限が必要です。Rational Test のテスト データストアにテスト グループまたはテスト ユーザーを追加するには、次の手順を実行します。

- 1 Rational Administrator を使用してプロジェクトに接続します。Rational Administrator の [ファイル] メニューの [接続] をクリックします。適切なプロジェクト名を選択し、[OK] をクリックします。
- 2 以下の手順に従って、テスト グループを追加します。
  - a [挿入] メニューの [Test グループ] をクリックします。
  - b 接続されているすべてのプロジェクトが表示されたダイアログ ボックスが表示されます。テスト グループを追加するプロジェクトを選択し、[OK] をクリックします。  
[Test グループの挿入] ダイアログ ボックスが表示されます。
  - c グループの名前と説明を入力します。
  - d 必要に応じて [デフォルト グループとして設定] をクリックして、追加されるすべてのテスト ユーザーのデフォルト グループとなるテスト グループを設定することもできます。
  - e 該当するチェック ボックスをオンまたはオフにして、テスト グループの権限を設定します。
    - [書き込み権限]: Test 計画アセット、Test 実装アセット、Test 実行アセット、Test 結果分析アセットの作成、変更、削除権限をグループに与える場合は、該当するチェック ボックスをオンにします。
    - [管理権限]: テスト アセットのカスタマイズ権限をグループに与える場合は、該当するチェック ボックスをオンにします。テスト アセットには、スクリプトとスイートが含まれます。

テスト アセットの例を表 6 に示します。

表 6 テスト アセットの例

テスト アセットのタイプ	例
Test 計画アセット	テスト計画と計画の反復
Test 実装アセット	テスト計画の実装時に使用するツール

表 6 テスト アセットの例 ( 続き )

テスト アセットのタイプ	例
Test 実行アセット	スイート、コンピュータ、コンピュータのリスト
Test 結果分析アセット	ビルド結果、テスト ログ フォルダ、テスト ログ

- f [OK] をクリックします。
- 3 以下の手順に従って、テスト ユーザーを追加します。
  - a [挿入] メニューの [Test ユーザー] をクリックします。
  - b 接続されているすべてのプロジェクトが表示されたダイアログ ボックスが表示されます。テスト ユーザーを追加するプロジェクトを選択し、[OK] をクリックします。  
[Test ユーザーの挿入] ダイアログ ボックスが開きます。
  - c [全般] タブで、ユーザー情報を入力します。
  - d [グループ] タブで、グループにユーザーを追加したり、グループからユーザーを削除したりします。
  - e [OK] をクリックします。

## テスト グループまたはテスト ユーザーの変更

テスト グループを変更するには、Admin テスト ユーザー権限が必要です。既存のテスト グループ情報を変更するには、次の手順を実行します。

- 1 Rational Administrator のメニューから、プロジェクトに接続します。[ファイル] メニューの [接続] をクリックします。適切なプロジェクト名を選択し、[OK] をクリックします。
- 2 メイン ウィンドウの左側のペインに [Test グループ] または [Test ユーザー] のリストが表示されない場合は、[Rational Test データストア] をダブルクリックします。
- 3 変更するテスト グループまたはテスト ユーザーが表示されていない場合は、[Test グループ] または [Test ユーザー] をダブルクリックしてすべてのグループまたはユーザーを表示します。
- 4 変更するテスト グループまたはテスト ユーザーを選択します。
- 5 [編集] メニューの [プロパティ] をクリックします。
- 6 適切なタブでテスト グループまたはテスト ユーザー情報を変更します。
- 7 [OK] をクリックします。

## テスト グループまたはテスト ユーザーの削除

テスト グループを削除すると、削除されたグループに所属していたすべてのテスト ユーザーのグループ権限も削除されます。テスト グループを削除しても、テスト ユーザーは削除されません。

Rational Test のテスト データストアからテスト グループまたはテスト ユーザーを削除するには、次の手順を実行します。

- 1 Rational Administrator を使用してプロジェクトに接続します。Rational Administrator のメニューから、プロジェクトに接続します。[ファイル] メニューの [接続] をクリックします。適切なプロジェクト名を選択し、[OK] をクリックします。
- 2 メイン ウィンドウの左側のペインに [Test グループ] または [Test ユーザー] のリストが表示されない場合は、[Rational Test データストア] をダブルクリックします。
- 3 削除するテスト グループまたはテスト ユーザーが表示されていない場合は、[Test グループ] または [Test ユーザー] をダブルクリックしてすべてのグループまたはユーザーを表示します。
- 4 削除するテスト グループまたはテスト ユーザーを選択し、[編集] メニューの [削除] をクリックします。

削除するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

- 5 [はい] をクリックします。

## テスト ユーザーのパスワードの変更

テスト ユーザーのパスワードを変更するには、次の手順を実行します。

- 1 Rational Administrator メイン ウィンドウで、[Rational Test データストア] をダブルクリックします。
- 2 [Test ユーザー] をダブルクリックして、すべてのテスト ユーザーを表示します。
- 3 パスワードを変更するユーザーのユーザー名を選択します。
- 4 [編集] メニューの [プロパティ] をクリックします。
- 5 [プロパティ] ボックスの [全般] タブにある [パスワード] ボックスで元のパスワードを選択し、新しいパスワードを入力します。

パスワードは、半角英数字 20 文字 (ASCII 文字のみ) 以内で入力してください。大文字と小文字は区別されます。パスワード フィールドでは、強調文字などの ASCII 以外の文字は使用できません。

- 6 [OK] をクリックします。



# ClearQuest と RequisitePro の統合の設定

# 6

この章では、Rational ClearQuest と Rational RequisitePro の統合に関する設定手順について説明します。この統合により、ClearQuest のレコードを RequisitePro の要求に関連付けできるようになります。

RequisitePro と ClearQuest を統合した後に、その機能を有効活用する方法については、ドキュメント CD に収録されている『Rational Suite AnalystStudio 入門』を参照してください。

## この章の内容

タスク	参照先
統合を設定する前の Rational Administrator プロジェクトのセットアップ	57 ページの「Rational Administrator プロジェクトの設定」を参照してください。
ClearQuest スキーマと RequisitePro プロジェクトに対して、標準設定タイプまたはカスタム設定タイプの統合を実行できるかどうかのテスト	57 ページの「ClearQuest スキーマと RequisitePro プロジェクトのテスト」を参照してください。
標準のレコードタイプと要求タイプを使用した新規統合の設定 (統合機能を使い慣れていないユーザーに推奨)	58 ページの「標準統合の設定」を参照してください。
カスタムのレコードタイプと要求タイプを使用した新規統合の設定 (使用経験のあるユーザーに推奨)	59 ページの「カスタム統合の設定」を参照してください。
非表示のレコードがある ClearQuest データベースの使用	62 ページの「レコードへのアクセス権の維持管理」を参照してください。
ClearQuest MultiSite 環境での作業	62 ページの「ClearQuest MultiSite との統合の使用」を参照してください。
既存の統合関連付けの再設定または修復	本書の指示に従って、すべての Rational 製品、データベース、スキーマ、プロジェクトをアップグレードした後、63 ページの「統合の修復と再設定」の手順に従ってください。

## 設定プロセスの概要

---

統合を設定するには、次の手順を実行します。

- 1 統合設定の計画を立てます。つまり、統合の設定タイプとして**標準**または**カスタム**のいずれかを選択します。
- 2 Rational プロジェクトを設定し、ClearQuest データベースと RequisitePro プロジェクトを関連付けます。
- 3 RequisitePro-ClearQuest 統合ウィザードを使用して、プロジェクトをテストします。
- 4 必要に応じて、テストで検出された問題が解消されるように、ClearQuest スキーマと RequisitePro プロジェクトを設定し直します。
- 5 RequisitePro-ClearQuest 統合ウィザードを使用して、統合を設定します。

## RequisitePro-ClearQuest 統合ウィザードの概要

---

RequisitePro-ClearQuest 統合ウィザードにより、新しい統合の設定、既存の統合の再設定と修復を容易に行えるようになりました。また、このウィザードでは、新規の統合と既存の統合に関する問題を解決できるように、データベース、プロジェクト、関連付けのテストと確認も行われます。

以前のバージョンの Rational ソフトウェアでは、統合の設定を `ASCQISetup.bat` ファイルと `ASCQISetup.exe` ファイルで行っていましたが、現在のバージョンからは、それらのファイルの代わりとしてこのウィザードを使用できます。既存の統合設定は、従来どおり `ASCQISetup.bat` と `ASCQISetup.exe` で変更することも、このウィザードを使用して変更することもできます。

## 計画: 使用する設定タイプ (標準またはカスタム) の決定

---

統合を設定する前に、その統合をカスタマイズするか、あらかじめ用意されている ClearQuest スキーマ テンプレートと RequisitePro プロジェクト テンプレートの標準設定を使用するかを決定する必要があります。

### 標準設定タイプ

標準の統合では、ClearQuest の Defect レコードタイプと EnhancementRequest レコードタイプが、RequisitePro の FEAT 要求タイプに関連付けられます。FEAT 要求タイプには、Defect と EnhancementRequest の 2 つの属性があります。統合機能を使い慣れていない場合や、統合時にカスタムのレコードや要求タイプを関連付ける必要がない場合は、標準設定タイプを選択してください。

## カスタム設定タイプ

カスタムの統合では、任意のレコードタイプを任意の要求タイプに関連付けることができます。統合機能に習熟している場合や、統合時に特別なレコードと要求タイプを関連付ける必要がある場合は、カスタム設定タイプを選択してください。

## Rational Administrator プロジェクトの設定

---

統合を有効にするには、ClearQuest データベースと RequisitePro プロジェクトを関連付ける Rational Administrator プロジェクトを作成します。ClearQuest データベースと RequisitePro プロジェクトが Rational プロジェクトに関連付けられていない場合は、Rational Administrator を使用してプロジェクトを作成します。Rational プロジェクトを設定する際に、統合に使用する ClearQuest データベースと RequisitePro プロジェクトを選択します。詳細については、27 ページの「Rational プロジェクトの作成と設定」または Rational Administrator のヘルプを参照してください。

Rational Administrator プロジェクトを設定する際にエラー メッセージが表示された場合は、63 ページの「Rational Administrator プロジェクトに関する問題の修復」を参照してください。

## ClearQuest スキーマと RequisitePro プロジェクトのテスト

---

RequisitePro-ClearQuest 統合ウィザードを使用して ClearQuest スキーマと RequisitePro プロジェクトをテストできます。このウィザードでは、カスタム設定タイプまたは標準設定タイプの統合に必要なレコードタイプ、要求タイプ、属性があるかどうかを確認できます。

- 1 Rational Administrator を起動します。
- 2 ClearQuest データベースと RequisitePro プロジェクトが含まれる Rational プロジェクトを右クリックし、[RequisitePro-ClearQuest 統合] をクリックします。
- 3 [設定タイプの選択] ページで、利用できる設定タイプを確認します。目的の設定タイプを使用できる場合は、そのままウィザードを続行します。
- 4 一方または両方の設定タイプを使用できない場合は、不足していたり設定が誤っている要求タイプ、レコードタイプ、属性について説明する設定レポートが生成されます。  
[統合ステータス] を選択すると、このレポートを表示し、保存できます。

生成された設定レポートに応じて、ClearQuest データベースと RequisitePro プロジェクトを設定します。詳細手順は、選択する設定タイプによって異なります。標準設定タイプを選択する場合は、58 ページの「標準統合の設定」に記載されているとおりにプロジェクトを設定します。カスタム設定タイプを選択する場合は、59 ページの「カスタム統合の設定」に記載されているとおりにプロジェクトを設定してください。

## 標準統合の設定

標準の統合を設定するには、ClearQuest データベースと RequisitePro プロジェクトを作成し、それらを 1 つの Rational Administrator プロジェクト内で関連付ける必要があります。

ClearQuest データベースや RequisitePro プロジェクトをまだ作成していない場合は、この項の、使用するスキーマとテンプレートに関する箇所を参照してください。

ClearQuest データベースと RequisitePro プロジェクトを既に作成している場合は、ウィザードを使用して、標準設定タイプの統合を設定できるかどうかを簡単に確認できます。このウィザードでは、ClearQuest データベースと RequisitePro プロジェクトに、標準タイプの統合に必要なレコードタイプと要求タイプが存在するかどうかを確認されます。

### ClearQuest スキーマの設定

標準の統合を実行できるように ClearQuest スキーマを設定するには、ClearQuest に付属の次のスキーマ パッケージのいずれかを使用して、データベースを作成します。

- Rational Suite AnalystStudio スキーマ
- Rational Suite DevelopmentStudio スキーマ
- Rational Suite Enterprise スキーマ
- Rational Suite TestStudio スキーマ

または、次のレコード タイプを含むカスタム スキーマを使用します。

- 登録フォームとレコード フォームが関連付けられている Defect レコード タイプ
- 登録フォームとレコード フォームが関連付けられている EnhancementRequest レコード タイプ

各レコードタイプには、次の適切なタイプのアクションが関連付けられていることが必要です。

アクション	タイプ
Submit	状態遷移
Open	状態遷移
Close	状態遷移
Modify	変更

カスタム スキーマまたは Blank スキーマを使用して ClearQuest データベースを作成した場合、その ClearQuest データベースには、標準設定タイプの統合に必要なレコードタイプ、アクション、状態が不足している可能性があります。

ClearQuest でレコードタイプ、アクション、状態を作成する方法については、ClearQuest Designer のヘルプを参照してください。

## RequisitePro プロジェクトの設定

標準の統合を実行できるように RequisitePro プロジェクトを設定するには、RequisitePro に付属している次のプロジェクト テンプレートのいずれかを使用してプロジェクトを作成します。

- 複合テンプレート
- トラディショナル テンプレート
- ユースケース テンプレート

または、プレフィックスが FEAT の要求タイプと ClearQuest 統合タイプの 2 つの属性 (Defect と EnhancementRequest) を含むプロジェクトを使用します。

カスタム テンプレートまたは Blank テンプレートを使用して RequisitePro プロジェクトを作成した場合、そのプロジェクトには、標準設定タイプの統合に必要な要求タイプ、属性が不足している可能性があります。

要求タイプと属性を作成する方法については、RequisitePro のヘルプで「要求タイプについて」を参照してください。

## 構成の設定

ClearQuest データベースと RequisitePro プロジェクトを単一の Rational Administrator プロジェクトで関連付けた後、RequisitePro-ClearQuest 統合ウィザードを使用して関連付けの設定を行います。

- 1 Rational Administrator を起動します。
- 2 ClearQuest データベースと RequisitePro プロジェクトが含まれる Rational プロジェクトを右クリックし、[RequisitePro-ClearQuest 統合] をクリックします。
- 3 [設定タイプの選択] ページで、[標準] 設定タイプを確認します。

[標準] を選択できない場合は、次に説明する標準のレコードタイプと要求タイプをデータベースとプロジェクトに追加してから、標準の統合を設定します。

## カスタム統合の設定

---

カスタムの統合を設定するには、ClearQuest データベースと RequisitePro プロジェクトを作成し、それらを 1 つの Rational Administrator プロジェクト内で関連付ける必要があります。ClearQuest データベースや RequisitePro プロジェクトをまだ作成していない場合は、この項の、使用するスキーマとテンプレートに関する箇所を参照してください。

ClearQuest データベースと RequisitePro プロジェクトを既に作成している場合は、ウィザードを使用して、カスタム設定タイプの統合を設定できるかどうかを簡単に確認できます。このウィザードでは、ClearQuest データベースと RequisitePro プロジェクトに、標準タイプの統合

に必要なレコードタイプと要求タイプが存在するかどうかを確認されます。詳細については、57 ページの「ClearQuest スキーマと RequisitePro プロジェクトのテスト」を参照してください。

## ClearQuest スキーマの設定

スキーマには、最新バージョンの RequisitePro パッケージと Repository パッケージを適用しておく必要があります。これらのパッケージを適用していない場合、Rational Administrator で ClearQuest プロジェクトと RequisitePro プロジェクトを関連付けできません。

スキーマには少なくとも 1 つのレコードタイプが必要です。また、要求タイプに関連付けるレコードタイプごとに、Requirements\_List (またはカスタム リスト) フィールドに逆参照フィールドが必要です。

逆参照フィールドをスキーマに追加するには、次の手順を実行します。

- 1 ClearQuest Designer で、[ファイル] メニューの [スキーマを開く] をクリックします。  
[スキーマを開く] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 2 [スキーマをチェックアウトして編集] オプションをオンにします。
- 3 リストでスキーマを選択し、[次へ] をクリックします。[完了] をクリックします。
- 4 スキーマ ブラウザで、[レコードタイプ] フォルダを開きます。
- 5 RequisitePro パッケージを適用するときに選択したレコードタイプで、[フィールド] をダブルクリックします。フィールドのリストが表示されます。
- 6 Requirements\_List フィールド名を右クリックし、[フィールドのプロパティ] をクリックします。[プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 7 [逆参照フィールド] で、適切なレコードタイプの名前 (EnhancementRequests\_List など) を入力します。スキーマの中には、このフィールドにすでに値が入力されているものがあります。このフィールドが読み取り専用になっている場合もあります。読み取り専用の場合、このフィールドに対する操作は不要です。
- 8 [プロパティ] ダイアログ ボックスを閉じます。
- 9 RequisitePro パッケージの適用時に選択したレコードタイプごとに手順 5 ～ 8 を繰り返します。
- 10 [ファイル] メニューの [チェックイン] をクリックします。ClearQuest によるスキーマ検証が実行され、[チェックイン] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 11 スキーマの変更を説明するコメントを入力し、[OK] をクリックします。

パッケージに対して行った変更内容を ClearQuest ユーザー データベースに適用するには、次の手順を実行します。

- 1 データベースをバックアップします。
- 2 ClearQuest Designer で [データベース] メニューの [データベースのアップグレード] をクリックし、[はい] をクリックして続行します。
- 3 [データベースのアップグレード] ウィンドウで、Rational プロジェクトに含まれているデータベース インスタンスを選択します。[次へ] をクリックします。
- 4 最新バージョンのスキーマ (最も大きなバージョン番号のスキーマ) を選択します。[完了] をクリックします。
- 5 [OK] をクリックし、ClearQuest Designer を閉じます。

これにより、現在の RequisitePro と ClearQuest の統合に対応するように、ClearQuest データベースがアップグレードされます。

ClearQuest でレコードタイプ、アクション、状態を作成する方法については、ClearQuest Designer のヘルプを参照してください。

## RequisitePro プロジェクトの設定

RequisitePro プロジェクトには、ClearQuest 統合タイプの属性が 1 つ以上割り当てられた要求タイプが少なくとも 1 つ必要です。

要求タイプと属性を作成する方法については、RequisitePro のヘルプで「要求タイプについて」を参照してください。

## 構成の設定

ClearQuest データベースと RequisitePro プロジェクトを単一の Rational プロジェクトで関連付けた後、RequisitePro-ClearQuest 統合ウィザードを使用して関連付けの設定を行います。

- 1 Rational Administrator を起動します。
- 2 ClearQuest データベースと RequisitePro プロジェクトが含まれる Rational プロジェクトを右クリックし、[RequisitePro-ClearQuest 統合] をクリックします。
- 3 [設定タイプの選択] ページで、[カスタム] 設定タイプを選択します。  
[カスタム] を選択できない場合は、ClearQuest データベースと RequisitePro プロジェクトの統合を設定することはできません。統合を設定する前に、レコードタイプ、要求タイプ、属性をデータベースとプロジェクトに追加する必要があります。不足しているレコードタイプ、要求タイプ、属性を確認するには、[統合ステータス] を選択します。
- 4 [関連付けの設定] ページで、統合に必要な要求タイプ、レコードタイプ、属性を選択します。

- 以降の手順で、選択した内容を確定する前に確認するよう求めるメッセージが表示されます。後で統合を変更する場合は、64 ページの「既存の統合の再設定」の手順に従ってください。

## レコードへのアクセス権の維持管理

---

ClearQuest のレコードに対するアクセス制限機能により、特定の ClearQuest レコードへのアクセスを制限できます。管理者の定義した基準に基づいて、選択した ClearQuest ユーザー グループによる特定レコードへのアクセスが制限されます。この基準では、特定の ClearQuest 参照フィールドの値を基に、ユーザー グループがレコードにアクセスできるかどうかを定義します。RequisitePro と ClearQuest を統合する場合、RequisitePro ユーザーが、統合されるすべてのレコードにその有効期間にわたってアクセスできることが必要です。

RequisitePro との統合に必要な RAPProject フィールドの値を基に、ユーザー グループのレコードへのアクセス権を定義することを推奨します。この基準を採用すると、RequisitePro と ClearQuest の統合を維持できます。RAPProject フィールドの値を変更するには、事前に RequisitePro の要求に対する関連付けをすべて削除しなければならないためです。さらに、この基準を選択すると、すべての RequisitePro プロジェクト ユーザーが同じ ClearQuest レコードに対してアクセス権を持つようになります。

## ClearQuest MultiSite との統合の使用

---

ClearQuest MultiSite 環境で RequisitePro と ClearQuest を統合する場合、各サイトで個別に統合を設定する必要があります。オリジナルの ClearQuest スキーマ リポジトリとユーザー データベースとの統合や、ローカルのレプリカとの統合を行うことができます。ClearQuest データベースと統合するには、そのデータベースが RAPProject レコードのマスターシップと、関連付ける ClearQuest レコードのマスターシップを有していることが必要です。

処理時間を短縮するには、ClearQuest データベース内のレコードをマスターシップ別にフィルタ処理するクエリーを作成することをお勧めします。このクエリーで対象レコードを絞り込んでから、[ 関連付け <ClearQuest レコードタイプ> ] ダイアログ ボックスでそれらのレコードを要求に関連付けます。このクエリーを作成するには、関連付けダイアログ ボックスで [ クエリーのビルド ] をクリックします。詳細については、該当するダイアログ ボックスのヘルプを参照してください。

ClearQuest MultiSite との統合を設定するには、次の手順を実行します。

- 各サイトでローカル RequisitePro プロジェクトを個別に作成し、設定します。
- 各サイトで、ClearQuest MultiSite データベースとローカル RequisitePro プロジェクトを関連付ける Rational Administrator プロジェクトを個別に作成し、設定します。

**メモ:** 各 ClearQuest レコードに一度に関連付けることのできる要求は 1 つのみです。そのレコードが格納されている ClearQuest データベースが、複数の RequisitePro プロジェクトに関連付けられている場合でも同様です。

MultiSite 環境で統合を設定する際、ClearQuest メンテナンス ツールで、使用するスキーマ リポジトリを指定する必要がある場合があります。デフォルトのローカル レジストリ キー 2003.06.10 と一致する適切なスキーマ リポジトリへの接続を必ず使用してください。

**メモ:** 詳細については、Rational Solutions for Windows のオンライン ドキュメント CD-ROM に収録されている『Rational ClearQuest MultiSite 管理ガイド』を参照してください。

## 統合の修復と再設定

ここでは、新規の統合と既存の統合に関するトラブルシューティング方法について説明します。次の表に、この項で説明する内容をまとめてあります。この表を参考に、必要な箇所を参照してください。

タスク	参照先
Rational Administrator で ClearQuest データベースを RequisitePro プロジェクトに関連付ける際にエラー メッセージが表示される	63 ページの「Rational Administrator プロジェクトに関する問題の修復」を参照してください。
統合で使用するレコードタイプ、要求タイプ、属性が変更されたため、レコードと要求の関連付けが解除されてしまった統合の修復	64 ページの「無効な関連付けの修復」を参照してください。
利用中の統合の変更	64 ページの「既存の統合の再設定」を参照してください。

## Rational Administrator プロジェクトに関する問題の修復

Rational Administrator でパッケージ不足に関するエラー メッセージが表示される場合は、ClearQuest スキーマに **Repository** パッケージか **RequisitePro** パッケージがありません。これらのパッケージを適用し、アップグレードしてから、Rational Administrator を使用して ClearQuest データベースと RequisitePro プロジェクトを関連付けてください。

## Repository パッケージと RequisitePro パッケージの適用

Repository と RequisitePro パッケージを適用するには、次の手順を実行します。

- 1 ClearQuest Designer で [パッケージ] メニューの [パッケージ ウィザード] をクリックします。[パッケージ ウィザード] ウィンドウが表示されます。
- 2 [スキーマにインストールするパッケージを選択] リストで、Repository パッケージの最新バージョンを選択します。[OK] をクリックします。
- 3 パッケージ ウィザードで [次へ] をクリックします。スキーマを選択します。再度 [次へ] をクリックします。

- 4 統合に使用するすべてのレコードタイプを選択します。

**メモ:** Repository パッケージの以前のバージョンが適用されている場合は、スキーマの一部のレコードタイプが、すでに選択されているため表示されないことがあります。少なくともレコードタイプ **Defect** と **EnhancementRequest** ( 存在する場合 ) を選択することをお勧めします。

- 5 [完了] をクリックします。
- 6 RequisitePro パッケージに対して手順 1 ～ 5 を繰り返します。
- 7 ClearQuest で、[ファイル] メニューの [チェックイン] をクリックし、スキーマをチェックインします。確認してから [OK] をクリックします。チェックインを確認するダイアログボックスで再度 [OK] をクリックします。

## 無効な関連付けの修復

統合が正常に設定されても、要求タイプ、レコードタイプ、属性が変更されると、統合を可能にしている関連付けの一部または全部が無効になる場合があります。これらの関連付けを修復するには、要求タイプ、レコードタイプ、属性を元の状態に戻すか、ウィザードを使用してそれらの関連付けを修復します。

ウィザードを使用して無効な関連付けを修復するには、次の手順を実行します。

- 1 Rational Administrator を起動します。
- 2 既存の統合が含まれる Rational プロジェクトを右クリックし、[RequisitePro-ClearQuest 統合] をクリックします。
- 3 [設定タイプの選択] ページで、[Specify the requirement and record types used by the integration or repair or reconfigure my current integration] を選択します。
- 4 [関連付けの設定] ページの関連付けペインで、関連付けを追加するか、無効とマークされた関連付けを削除または修正します。
- 5 変更内容を確認します。

## 既存の統合の再設定

既存の統合を再設定するには、RequisitePro-ClearQuest 統合ウィザードを使用します。

### カスタムの関連付けによる既存の関連付けの再設定

カスタムの関連付けによって既存の関連付けを再設定するには、次の手順を実行します。

- 1 Rational Administrator を起動します。
- 2 既存の統合が含まれる Rational プロジェクトを右クリックし、[RequisitePro-ClearQuest 統合] をクリックします。

- 3 [設定タイプの選択] ページで、[Specify the requirement and record types used by the integration or repair or reconfigure my current integration] を選択します。
- 4 [関連付けの設定] ページの関連付けペインで、関連付けを追加、削除、修正します。
- 5 変更内容を確認します。

## 標準の関連付けによる既存の関連付けの上書き

標準タイプで設定した既存の統合を再設定するには、ClearQuest データベースと RequisitePro プロジェクトに、56 ページの「標準設定タイプ」で説明した標準のレコードタイプ、要求タイプ、属性がすべて含まれていることが必要です。ウィザードでは、これらの要素がすべて含まれているかどうかを確認された後で、既存の統合が上書きされます。

標準の統合設定で既存の統合を上書きするには、次の手順を実行します。

- 1 Rational Administrator を起動します。
- 2 既存の統合が含まれる Rational プロジェクトを右クリックし、[RequisitePro-ClearQuest 統合] をクリックします。
- 3 上書きオプションとして、[標準のレコードと要求タイプの関連付けを使い既存の関連付けを上書きします] を選択します。

変更内容を確認します。



この章では、トラブルシューティングに関する基本的な情報と、Rational のマニュアルに記載されているその他のトラブルシューティング情報の入手先を紹介します。

## トラブルシューティング ガイド

表 7 に、問題の現象、発生し得る問題、解決方法を一覧表示します。問題の解決方法について不明な点がある場合は、実際に作業を実行する前に Rational カスタマ サポートにお問い合わせください。詳細については、69 ページの「カスタマ サポートに問い合わせる前に」を参照してください。

表 7      トラブルシューティング ガイド

現象	発生し得る問題	解決方法
ClearQuest データベースを含む Rational プロジェクトの設定時に、ClearQuest データベースにアクセスできないという内容のメッセージが表示される。	ライセンス サーバーが使用できなくなるか、使用しているライセンスが無効になる。	ライセンス情報を確認します。有効なライセンスを有しているかどうかを確認してください。
テスト中にデータストアに正常に接続できないことがある。レポートされるテストデータに一貫性がない。一部のテスト データが失われる。	テスト データストアが破損している可能性がある。	テスト データストアに対して Datastore Doctor を実行し、その構造を確認し、不整合があれば修正します。Datastore Doctor の詳細については、オンライン ヘルプを参照してください。

## Rational ClearQuest との統合のトラブルシューティング

多くの Rational ツールには、Rational ClearQuest との統合機能があります。

この統合を有効にするには、専用の ClearQuest スキーマを使用するか、既存のスキーマに ClearQuest パッケージを適用します。場合によっては、追加のタスクを実行する必要があります。

## パッケージがないというエラーのトラブルシューティング

必要な統合パッケージがない場合に、Rational Test と RequisitePro の成果物が含まれる Rational プロジェクトに ClearQuest データベースを関連付けると、次のエラー メッセージが表示されます。

「統合をサポートするには、選択したスキーマを変更する必要があります。Rational プロジェクトを構成または使用する前に、1 つ以上の ClearQuest パッケージをスキーマに適用しなければなりません。」

ClearQuest Designer を使用して、表 8 に示されている適切な ClearQuest パッケージを適用してください。

これで、Rational プロジェクトにユーザー データベースを関連付けることができるようになります。

表 8 ClearQuest ユーザー データベースの統合に必要なパッケージ

Rational プロジェクトの状態	ClearQuest ユーザー データベースに Rational プロジェクトを関連付けるために必須のパッケージ
テスト成果物が含まれている	TeamTest パッケージ、Repository パッケージ
RequisitePro 成果物が含まれている	RequisitePro パッケージ、Repository パッケージ
UCM が有効である	UnifiedChangeManagement パッケージ、UCMPolicyScripts パッケージ、AMStateTypes パッケージ

パッケージの適用方法と、ClearQuest との統合の有効化については、『Rational ClearQuest 管理ガイド』を参照してください。

**メモ:** ClearQuest のパッケージまたはスキーマをカスタマイズすると、実行しようとしている統合やその他の Rational 製品間の統合が知らない間に無効になってしまう場合があります。パッケージやスキーマのカスタマイズは、Rational テクニカル エンジニアとフィールド エンジニアによって指示された場合にのみ行ってください。疑問点がある場合は、実際に作業を実行する前に Rational 技術サポートにお問い合わせください。

## データ コード ページ: ClearQuest との文字セットの互換性

---

Rational プロジェクトが ClearQuest と統合されている場合、データ コード ページに関するエラー メッセージが表示されることがあります。エラー メッセージは、ツールにデータを入力する際に、ClearQuest データベースが対応していない文字セットを使用すると表示されます。

たとえば、ClearQuest データベースに統合されている RequisitePro プロジェクトで作業を行っていて、ClearQuest データベースが英語だけに対応しているとします。RequisitePro のデータ入力に英語を使用した場合はエラー メッセージは表示されませんが、日本語や中国語などの別の文字セットを使用するとエラー メッセージが表示されます。

このエラー メッセージが表示された場合は、文字セットの非互換性に関する問題が発生したことを ClearQuest 管理者またはシステム管理者に報告し、解決してもらってください。

## カスタマ サポートに問い合わせる前に

---

Rational カスタマ サポートにお問い合わせいただく前に、xi ページの「Rational カスタマ サポートの連絡先」に示されている情報をご用意ください。また、次の情報もあわせてご用意ください。

- インストールしているアップグレードに関する情報
- インストールしているデータベース製品とその製品のリリース レベル
- ライセンス情報
  - ライセンス キー
  - ライセンスが有効かどうか
- 使用しているデバッグ ツールに関する情報 (CQ Trace など)
- プロジェクト成果物 (Rational プロジェクト、テスト データストア、ClearQuest データベース、Rose モデル、RequisitePro プロジェクトなど) に関する情報
  - 成果物を作成した製品とその製品リリース
  - 成果物がローカル コンピュータにあるか、ネットワーク上にあるか
  - 成果物がネットワーク上にある場合、それらのコンピュータが同じドメインにあるか、別のサブネット グループにあるか
  - アップグレードする前に成果物をバックアップしたかどうか
  - 実行したアップグレード手順と、その手順が記述されているマニュアル

- Rational プロジェクト (.rsp ファイル) のコピー

Windows の検索機能を使用してファイルを検索するか、技術サポート担当者に検索方法を問い合わせてください。

- ClearQuest に関する問題の場合は、追跡用の CQ.dat ファイルのコピー

Windows の検索機能を使用してファイルを検索するか、技術サポート担当者に検索方法を問い合わせてください。

## その他のトラブルシューティング情報

表 9 に、ほかの Rational 製品に関するトラブルシューティング情報を示します。

表 9 Rational のトラブルシューティング情報

項目	トラブルシューティング情報の入手先
Rational Suite ライセンス	『Rational Software ライセンス管理ガイド』の「ライセンスのトラブルシューティング」
Rational Suite のインストール	『Rational Software サーバー製品インストールガイド』の「トラブルシューティング」
ClearCase LT の管理	『Rational ClearCase 管理ガイド』の「トラブルシューティング」
RequisitePro の使用法	『Rational RequisitePro ユーザーズガイド』の「トラブルシューティング」

# 索引

## A

Admin テスト ユーザー 50, 51, 52

## C

ClearCase 14

ClearCase LT 17, 70

ClearQuest

    Rational プロジェクト 33

    RequisitePro との統合 55

    レコードへのアクセス権の維持管理 62

ClearQuest MultiSite

    Rational プロジェクトの設定 30, 47

## I

ISQL ツール 47

## R

[Rational RequisitePro プロジェクトの作成]  
    ダイアログ ボックス 30

Rational Suite

    環境のセットアップ 13

    サーバーのタイプ 14

    統合の設定 17

Rational Suite 環境のセットアップ 13

Rational Test

    Rational プロジェクト 32

Rational プロジェクト 19

    検索 27

    削除 46

    作成 27

    セキュリティ 16

    接続 37

    切断 38

    設定 29

    テスト アセットとの関連付け 32

    登録 37

    登録解除 38

    ビジュアル モデルとの関連付け 34

    プロパティ 38

    変更依頼との関連付け 33

RequisitePro

    ClearQuest との統合 55

    XDE 31

RequisitePro、プロジェクト 30

Rose

    Rational プロジェクト 34

    XDE 35

## S

SQL Anywhere 47

Sybase Central ツール 47

## U

UCM 13, 17, 20

UNC 28, 31, 32

## X

XDE 35

    RequisitePro 31

    Rose 35

## か

仮想パス マップ 34

## く

グループ 50

    削除 53

    設定 16

    変更 52

グループの変更 52

## さ

### 削除

Rational プロジェクト 46

グループ 53

ユーザー 53

サーバー、タイプ 14

## し

新規プロジェクトの作成ウィザード 28

## せ

成果物 19, 20, 21, 22, 29, 46

セキュリティ、設定 16

セキュリティ、デフォルト グループ 50

### 設定

グループ 16

セキュリティ 16

統合 17

ライセンス 16

## て

### テスト アセット

Rational Test データストア 22, 32

Rational プロジェクト 32

UCM 32

テスト グループ 50

テスト データストアの作成ツール 32

テスト ユーザー、定義 49

データストア、概要 22, 32

デフォルト グループ 50

## と

### 統合

ClearQuest と RequisitePro 55

トラブルシューティング 67

## は

パスワード、変更 53

## ひ

ビジュアル モデルと UCM 34

## ふ

[プロジェクトの設定] ダイアログ ボックス 29, 30,  
32, 33, 35

プロパティ、グループのプロパティの変更 52

## へ

### 変更依頼

Rational プロジェクト 33

UCM 33

## も

モデル、定義 24

## ゆ

ユーザー、設定 16

ユーザー、定義 49

## ら

ライセンス、設定 16